

JAPIA NEWS

2016
1・2

隔月刊
(通巻711号)

一般社団法人 日本自動車部品工業会

年頭所感

玉村和己 会長／経産省 伊吹英明 製造産業局自動車課長

特集

2015年度中間期 自動車部品工業の経営動向

通期は増収増益の見通し

リケジョ(理系女子学生)に身近な自動車部品産業へ

東京モーターショーに共同出展

支部活動レポート

中部支部

委員会部会だより

製品環境部会

自動車サプライチェーン全体の負荷低減に向けて

会員企業紹介

江崎工業株式会社

会員トピックス

ボッシュ株式会社下山田 淳 さん



地球を舞台にしたスポーツは、
自分勝手なルールではゴールできない。

デンソーは、この惑星を走るランナーとして
環境技術を進化させる。

地球とクルマの調和のために。

ホ シ
この惑星を技術で守りたい。

DENSO

モノづくりで社会に貢献する。



フタバ産業株式会社 岡崎市橋目町字御茶屋1番地

Koito



安全を光に託して

人とクルマの安全は、わたし達の願いです。

小糸製作所は自動車照明分野のリーディング・カンパニーとして
これからも人と環境にやさしい製品を提供してまいります。

株式会社小糸製作所

〒108-8711 東京都港区高輪四丁目8番3号

TEL: 03-3443-7111 (代表) <http://www.koito.co.jp>

**WHY?
NGK?**
SPARK PLUGS



信頼で選ぶなら

6
倍



世界初の「ルテニウム配合中心電極」により、一般プラグに比べ約6倍の走行耐久性を実現(当社比)。更に「白金突き出し+オーバル形状外側電極」により着火性も向上。あらゆる性能においてNGK史上最強のスパークプラグです。

ルテニウム配合中心電極
白金突き出し
オーバル形状外側電極

NGK
Premium RX

— プレミアムRXプラグ —



レーシングドライバー 佐藤琢磨

NGK **NTK** **日本特殊陶業**
スパークプラグ ニューセラミック

<http://www.ngkntk.co.jp/>



TOYODA GOSEI

～自動車部品とLEDで、
人と地球の未来に貢献～



ハンドル



エアバッグ



ラジエータグリル



発光ダイオード(LED)



LEDマップランプ

— 世界18カ国/地域に67の
グループ会社で事業展開 —

豊田合成株式会社

- 内外装部品(インパネモジュール、ラジエータグリル 他)
- オートモーティブシーリング製品(ウェザーストリップ、ガラスラン 他)
- 機能部品(燃料タンクモジュール構成部品、ホース類 他)

- セーフティシステム製品(ハンドル、各種エアバッグ 他)
- オプトエレクトロニクス製品(青色・白色LEDランプ・チップ 他)
- 特機製品(通信機器部品、住宅設備製品、産業車輛部品 他)

本社／〒452-8564 愛知県清須市春日長畑1番地 Tel:052-400-1055 Fax:052-409-7491
<http://www.toyoda-gosei.co.jp/>

イワタボルトの グローバルネットワーク

国内

- ・栃木工場・一関・山形・仙台・福島・宇都宮・栃木
- ・上田・群馬・太田・埼玉・つくば・千葉・五反田
- ・多摩・横浜・湘南相模・富士・浜松・名古屋・刈谷
- ・三重・大阪・福岡・久留米

海外

- ・タイ工場・シンガポール工場・オハイオ工場
- ・深圳工場・香港・上海・蘇州支店・武漢
- ・深圳貿易・深圳汽车零部件
- ・シンガポール・マレーシア・タイ・インドネシア
- ・アメリカ(ロサンゼルス・アトランタ・
オハイオ・ナッシュビル)・メキシコ・カナダ



認定または認証取得一覧

	タイトル	認定・認証施設	取得・更新年月	取得No.	認定・認証機関
日本	ISO/IEC 17025:2005	栃木試験所	2009年12月	RTL00210	JAB
	ISO/IEC 17025:2005	技術開発課 IBラボ	2011年4月	ASNITE 0050T	IA Japan
	ISO 9001:2008	栃木工場・技術開発課	2009年12月	YKA200001	LRQA
アメリカ	ISO 14001:2004	本社・五反田(営)・栃木工場	2010年1月	0772850	LRQA
	ISO 9001:2008	IWATA BOLT USA,INC	2010年9月	FM549851	BSI
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT USA,INC	2010年3月	EMS549810	BSI
シンガポール	ISO 9001:2008	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2009年7月	94-2-0318	PSB
	ISO 14001:2004	IWATA BOLT SINGAPORE PTE.LTD	2010年9月	2004-0265	PSB
タイ	ISO 9001:2008	IWATA BOLT THAILAND CO.,LTD.	2010年10月	TH07000507	BVQI
中国(深圳)	ISO/TS 16949:2009	岩田螺絲(深圳)有限公司	2010年11月	0079530	TÜV NORD
	ISO 9001:2008	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04100062166	TÜV NORD
	ISO 14001:2004	岩田螺絲(深圳)有限公司	2009年7月	04104062166	TÜV NORD

【IB】イワタボルト株式会社

〒141-8508 東京都品川区西五反田2丁目32番4号

電話 03(3493)0211(代表)

<http://www.iwatabolt.co.jp/>

「企業は人」 材育成

環境が変化しても

長し続ける

人材を育てる

人材育成制度

037 社

目標設定研修

075 回

評価者能力研修

540 回

昇格者選抜評価

143 回

人事・人材開発支援の

主な実績企業

アイシン・エーアイ株式会社
アイシン化工株式会社
アイシン機工株式会社
アイシン軽金属株式会社
アイシン・コムクルーズ株式会社
株式会社アイシン・コラボ
アイシン精機株式会社
アイシン辰栄株式会社
アイシン高丘株式会社
NTN 株式会社
株式会社キャタラー
埼玉工業株式会社
株式会社ソミック石川
津田工業株式会社
株式会社デンソーエアシステムズ
株式会社デンソーセールス
デンソーテクノ株式会社
トヨタ自動車株式会社
株式会社豊田自動織機
浜名湖電装株式会社
浜名部品工業株式会社
豊生ブレーキ工業株式会社
マブチモーター株式会社 他(50音順)

株式会社シナジーパワー

愛知県名古屋市中区丸の内 1-17-19 キリックス丸の内ビル 8F
TEL 052-204-4780 FAX 052-204-4700 〒460-0002
E-MAIL info@synergy-power.co.jp

日本から中国へ、中国から日本へ、
航空貨物より速く、
クーリエよりも速く貨物を運びたい…

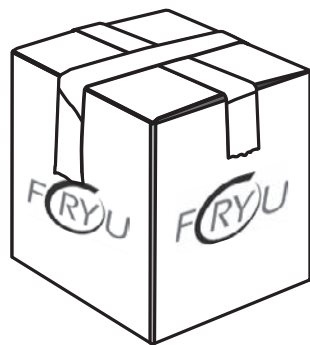
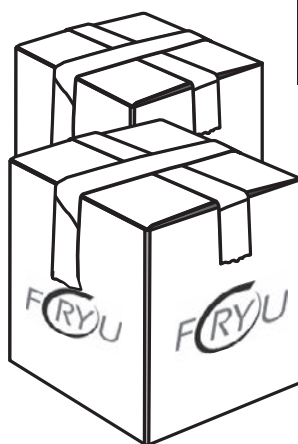
日本 中国間

同日即配！通関業務もお任せ下さい！

最速

定期便ご利用なら、
¥10,000 より

フォーユーエクスプレス



安心、確実、丁寧な
ハンドキャリーで
皆様のご要望に答えます。

TEL : 03-5651-5685 Mail : info@foryouexpress.jp
FAX : 03-3661-8170 URL : http://foryouexpress.jp/



フォーユーエクスプレス

検索

めざす未来はここからはじまる

CREATIVITY & INNOVATION

グローバルに広く世界へ、深く地域へ



TPMS送信機



ハイブリッド車用
バッテリーケース



ホイールキャップ



PACIFIC 太平洋工業株式会社

本社／〒503-8603 岐阜県大垣市久徳町100番地
工場／西大垣・東大垣・北大垣・養老・美濃・九州・栗原・若柳
海外拠点／台湾・韓国・アメリカ・タイ・中国・ベルギー
事業内容／自動車部品、電子機器製品等の製造ならびに販売
<http://www.pacific-ind.co.jp>

どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック! 新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、業界動向をリアルタイムでお伝えします。電子版でしか読めないコンテンツが満載。気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。



これでビジネスの幅が
広がります!



外出時や出張先、
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。



過去の記事もすぐに探せる
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。



速報
機能



無料のお試し購読はこちらから [日刊自動車新聞 電子版](#) 検索

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11 芝大門センタービル3階 TEL: 03-5777-2318 FAX: 03-5777-2319
E-mail: hanbai@njd.jp

巻頭言

Introduction

新年のご挨拶



一般社団法人日本自動車部品工業会
会長・玉村和己

〔日本発条株式会社 代表取締役社長〕

会員企業の皆様、明けましておめでとうございます。

年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、1月にフランスのパリで新聞社襲撃事件とそれに続く人質事件がありましたが、11月にも同じパリで同時多発テロが発生して多くの方が犠牲となるという、とても衝撃的な出来事がありました。依然として世界の各地で事件や紛争が頻発していますが、その結果として一般の市民までもが犠牲になってしまうことや、戦禍を逃れるため難民とならざるを得ないことなどを伝える報道に接するにつれ、世界情勢の厳しさを痛感する次第でございます。

日本国内でも、大企業での不祥事や、建築業界での問題発生、大雨の影響による各地での大変な被害など、心配なニュースが多くありました。

経済面では、北米市場が好調に推移する一方で、中国ほかの新興市場に景気減速感が出始め、世界および日本経済にどう影響するか懸念されておりますので、今後の動きには十分注意していく必要があると思います。

また、我われ自動車業界関係者にとりまして、昨年の国内新車販売の状況もあり嬉しいニュースではありませんでした。1月から12月まで12ヶ月連続して前年割れとなり大変厳しい状況となりました。4月には、2014年に実施されました消費税率引き上げの影響が一巡してくると思われまし

たが、一方で軽自動車の新車購入時にかかる軽自動車税が従来の1.5倍の1万800円に引き上げられた影響で、軽自動車の販売が大きく落ち込みました。また、10月から予定されていた消費税の10%への引上げが1年半延期になったことから、自動車取得税の廃止も延期となったため、国内の新車販売にとっては向かい風になりました。

一方で、低調な国内新車市場に対して「刺激を与える起爆剤」としての期待も込めて、第44回東京モーターショー2015が、東京ビックサイトにおいて10月29日（木）から11月8日（日）の会期で開催されました。東京モーターショーは、完成車メーカーのみならず部品メーカーにとりましても、一大イベントでございます。部品メーカーとしては、完成車メーカーや他の部品メーカーへの認知度の向上、さらには一般消費者に認知していただく場としても重要であると位置づけています。多くの会員各社様も出展されておりましたが、部工会でも共同展示ブースで、中小の会員企業様に出展していただきました。

そのような中、昨年ラグビーワールドカップ2015の予選における日本代表チームの歴史的な大活躍や、日本人研究者2名がノーベル賞を受賞するなど、大変嬉しいニュースもございました。ラグビーワールドカップでは、日本代表チームは予選で3勝したにもかかわらず残念ながら決勝進出は逃しましたが、日本中からの注目が集まりラグビー人気が高まりました。ノーベル

賞では、2014年より2年連続の受賞との快挙となり、日本の科学水準の高さを示しました。世界レベルにおけるスポーツ界での日本人の活躍は、競技を観戦する人々に感動や勇気を与えてくれます。またノーベル賞を受賞した研究者の成果は、病気の克服、生活レベルの向上、未来の新技術の開発などに繋がるものであります。

そして今年は夏にリオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが開催されます。次の2020年の東京オリンピック・パラリンピックの成功に向けた弾みとなるよう、日本人選手の活躍を期待しています。

私たちが携わっている自動車業界も、安全・安心で環境にやさしい移動手段としての自動車を提供することで人々の生活を向上させ、また運転する人に喜びや感動を与えることを通じて、グローバルな貢献が出来ると考えております。自動車業界を取り巻く環境には、まだまだ先行き不透明な要因も多くありますが、当工業会と致いたしましても、今後も引き続き、会員企業の皆様への情報提供・各種サポート、関連団体との調整、政府・関係省庁への働きかけなどを行い、会員企業の皆様と自動車部品業界の発展に努力していく所存でございます。

最後になりましたが、本年が、皆さんにとりまして充実した幸せな一年となることを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

平成28年

年頭所感

経済産業省製造産業局自動車課長

伊吹 英明



平成28年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

安倍政権が発足して3年が経過し、いわゆるアベノミクスの効果もあり、日本経済はデフレ脱却までもう一息のところまで来ています。

日本経済の好循環をさらに確固たるものにしていくためには、賃上げや投資拡大等にこれまで積極的に取り組み、産業界の先頭に立って好循環を牽引してきた自動車産業が、今後もますます発展し、積極的な取組を継続・強化していただくことが重要です。

その実現のため、世界の競争を勝ち抜ける技術力の強化、グローバル市場の獲得、国内市場の活性化といった我が国自動車産業が直面する課題に対して、皆様方の協力を得ながら、全力をあげて対応してまいります。

第一に、世界中で競争が激しさを増している次世代自動車、自動走行の分野で、我が国自動車産業が世界をリードしていけるよう積極的な支援を行ってまいります。次世代自動車については、車両購入補助、性能向上のための研究開発支援、充電インフラや水素ステーション整備への支援を引き続き推進していくとともに、自動走行については、産学官で協調して取り組む分野を特定し、他省庁とも連携しながら技術開発や事業環境の整備を加速してまいります。

第二に、グローバルな取引環境の構築のため、経済連携を推進してまいります。TPPについては昨年、大筋合意に至りましたが、今後はその利用促進に向けた環境整備を進めます。さらに、本年は、日EU・EPA交渉について、自動車産業にとって質の高い内容となるよう精力的に交渉を進め、早期の合意を目指します。

第三に、国内市場の活性化に関しては、自動車ユーザーの税負担のさらなる軽減に向けて尽力してまいります。平成28年度税制改正では、新設される環境性能課税について、廃止される自動車取得税よりも非課税範囲を拡大し、200億円程度の減税とすることができました。また、与党税制改正大綱において、「自動車の保有に係る税負担の軽減に関し総合的な検討を行い、必要な措置を講ずる」旨、明記いただくことができました。消費税10%への引上げを目前に控え、本年の税制改正でも、ユーザー負担の軽減が実現できるよう最大限努力してまいります。

これらに加え、自動車産業の改善した収益を地方の隅々にまで行きわたらせる観点から、自動車産業適正取引ガイドラインを活用し、取引適正化を推進してまいります。

最後になりますが、本年の皆様方のますますのご発展とご健勝を祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

特集

2015年通期は増収増益の見通し 2015年度中間期 自動車部品工業の経営動向から

2015年中間期の自動車部品工業の経営動向がまとまった。売上高については国内・軽自動車税増税による影響により軽自動車市場の低迷を招いたものの、海外事業が好調なうえ為替の影響により前年同期比10.2%増と2ケタ増となった（IFRS企業・前年同期比7.7%増）。営業利益は同15.3%増（同3.5%増）、経常利益は同5.3%増（税引前利益・同2.1%増）、四半期純利益は同15.0%増（四半期利益・同3.2%増）といずれも増収を果たした。

今回の調査の対象は15年11月1日現在の会員企業443社のうち、上場企業で自動車部品の売上高比率50%以上、かつ前年同期比較が可能な自動車専門企業82社。このうち国際財務報告(IFRS)適用企業は7社（全体に占める売上高比率22.1%）。

期間中の世界経済は米国では金融緩和の

政策正常化に向けた動きや原油価格の下落、ドル高の影響を懸念しながらも景気回復基調が継続した。欧州も持ち直した一方、中国や新興国では景気が緩やかに減速する環境となった。日本経済については原油価格の効果などもあり緩やかな回復基調を持続するとともに、為替は1ドル=119円台から6、8月には125円台まで円安方向に向かったのち120円台で推移し、輸出比率が高い企業を中心に企業収益を押し上げた。

自助努力も増収増益に貢献

こうした経済環境のなか、対象となる各社は欧米での好調な需要や為替に加えて、生産・調達の合理化や経費削減などによる自助努力により営業利益段階での増益に結

び付けた。一方で受注減少による影響や労務費・減価償却費・研究開発費の増加や一部新興国における景気の減速などから減益が生じたとする企業もあった。

地域別セグメント情報を記載している41社によると、国内は横ばい・減益で、北中南米は好調な自動車販売を背景にした実稼働率の向上により売上・利益が増加した。欧州は自動車市場の回復により売上、理系ともに回復した。

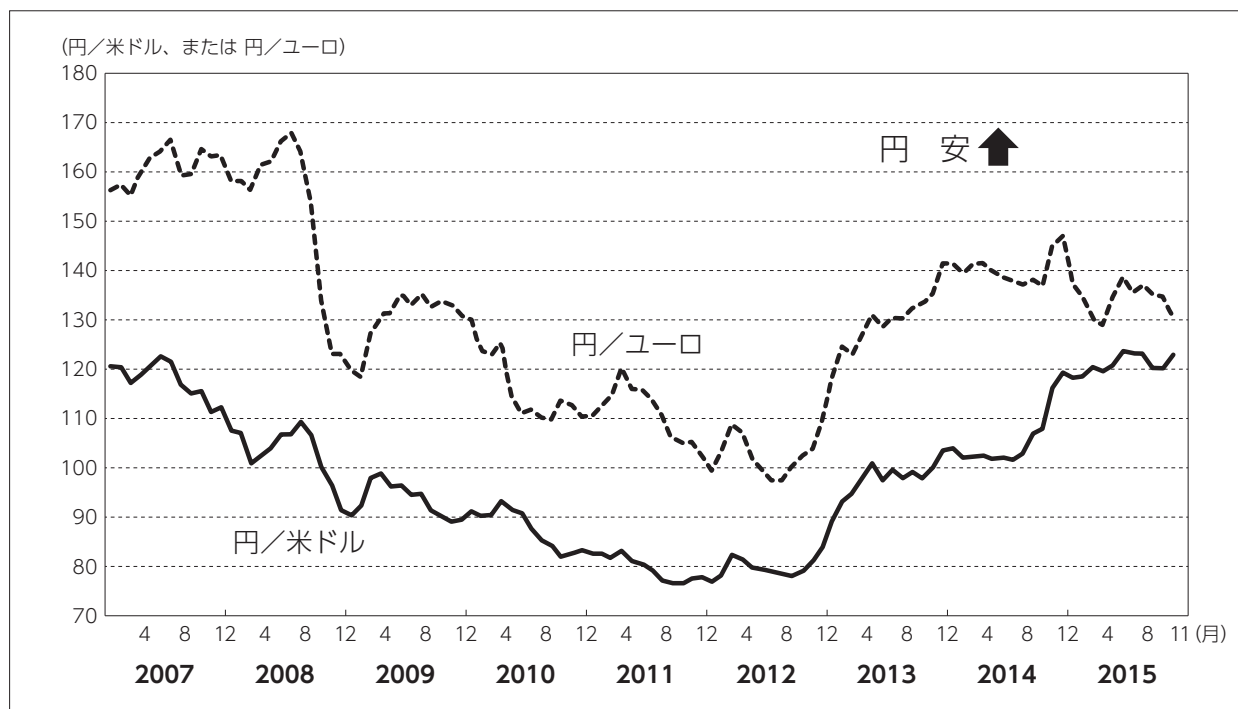
アジアについては増収増益となったものの、2011年第一四半期以降から利益率で2桁を切る状態が続いている。アジア地域全般での労務費の上昇や市場競争の激化、生産・販売台数の低迷、現地為替レートの変

動による損失が影響しているとみられる。

引き続きアジアも重視

2015年通期の見通しについては、2014年度に比べ増収増益の見通し。海外景気の下振れリスクや労務費上昇が懸念されるものの、原油安や円安基調の持続による利益押し上げ効果や、販売価格の上昇や売上・輸出数量の増加が見込まれている。懸念材料ともなるアジアについては利益率の低下がみられるものの、中長期的に需要の拡大が見込まれるため、日系企業にとっては引き続き重要な市場となっている。

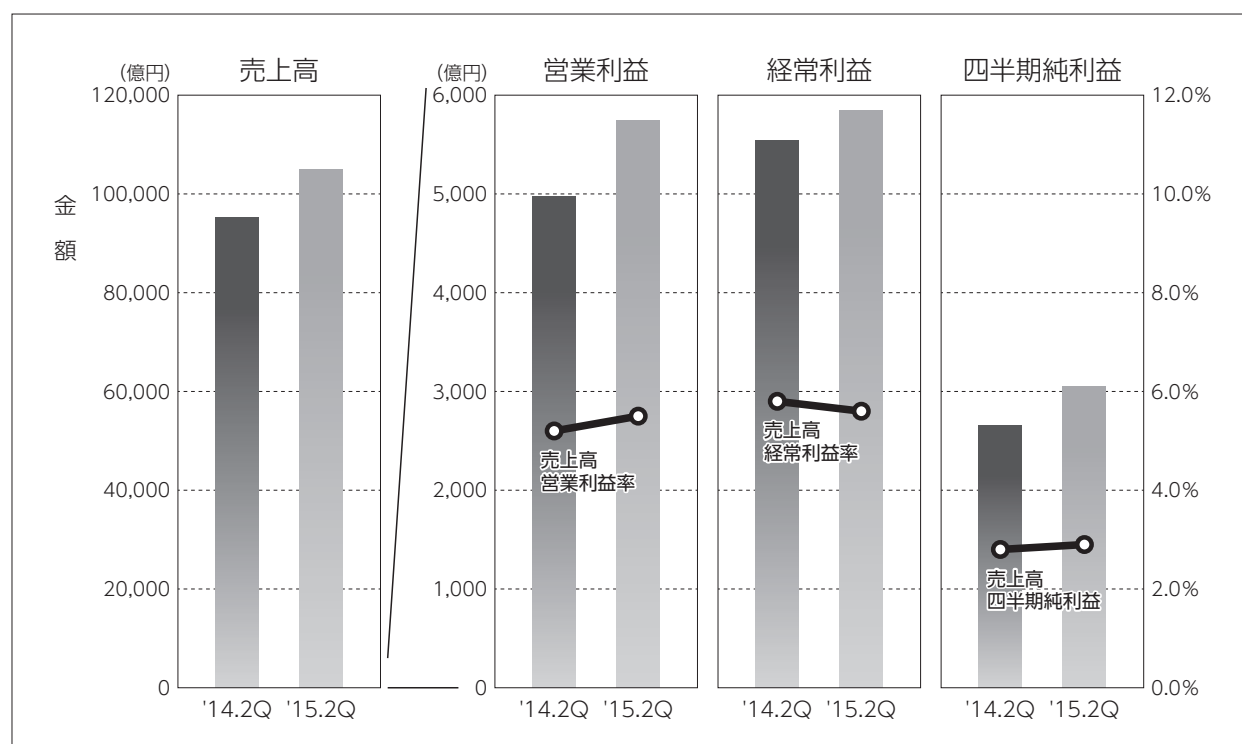
為替レートの推移表（米ドル、ユーロ）



(備考) 円/ドル、円/ユーロとも月中平均データ（みずほ銀行「外国為替公示相場ヒストリカルデータ」より）。
2015年11月に関しては11/24の終値。

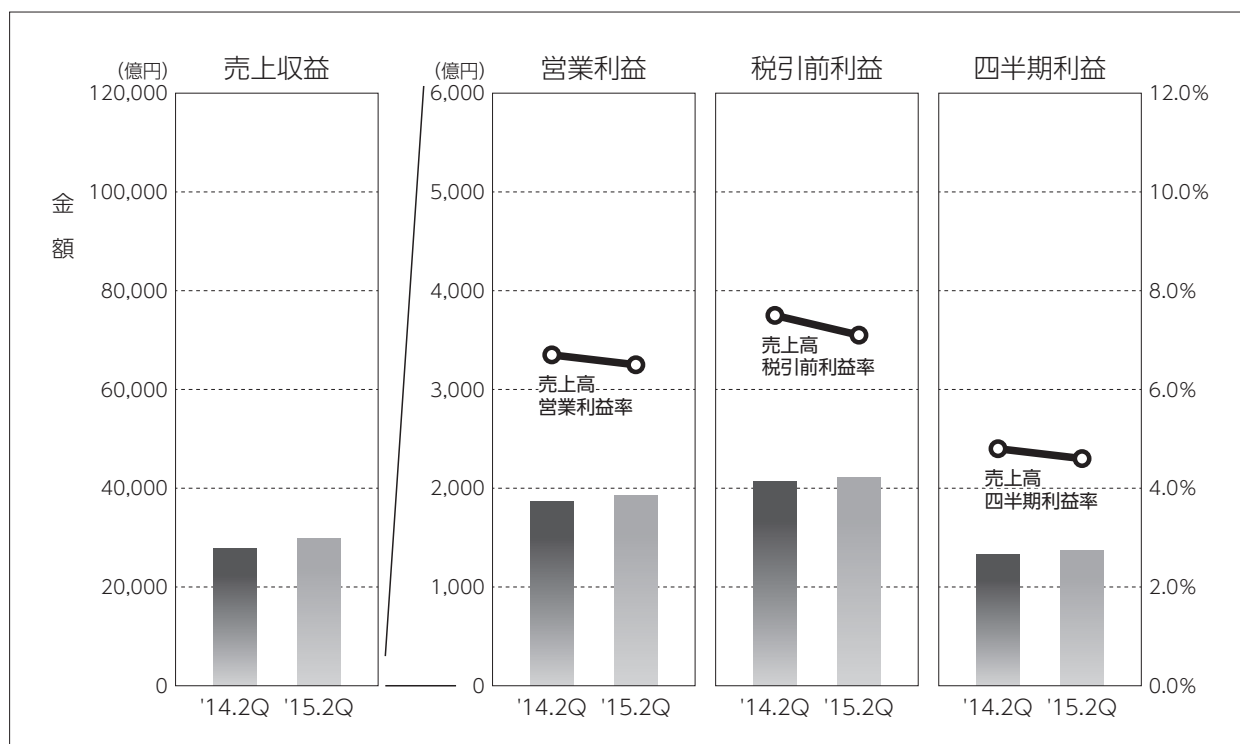
①日本基準適用企業75社

	2014年度中間期	2015年度中間期	前年同期差	前年同期比
売上高	95,287	104,988	9,701	+10.2%
営業利益	4,976	5,739	763	+15.3%
売上高営業利益率	5.2%	5.5%	0.3pt	—
経常利益	5,544	5,840	296	+5.3%
売上高経常利益率	5.8%	5.6%	-0.2pt	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,656	3,055	399	+15.0%
売上高四半期純利益率	2.8%	2.9%	0.1pt	—



②IFRS適用企業7社

	2014年度中間期	2015年度中間期	前年同期差	前年同期比
売上収益	27,699	29,839	2,140	+7.7%
営業利益	1,862	1,928	66	+3.5%
売上高営業利益率	6.7%	6.5%	-0.2pt	—
経常利益	2,065	2,109	44	+2.1%
売上高経常利益率	7.5%	7.1%	-0.4pt	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,330	1,373	43	+3.2%
売上高四半期純利益率	4.8%	4.6%	-0.2pt	—



玉村和己会長は2015年12月21日、東京都港区の日本自動車会館で会見し、部品メーカーの来年の生産見通しについて、「国内の新車販売は厳しいが、輸出分でカバーできれば今年並みの生産を確保できると見ている」と話し、自動車メーカーによる輸出の拡大に期待感を示した。「国内販売は厳しさが続くようだ」とする一方、「自動車メーカーでは一部に、海外生産を日本に戻す動きがある」とし、「国内販売の減少分を輸出でカバーできれば、国内生産は全体的には今年並みを確保できると

見ている」とした。

上場部品メーカーの2015年4～9月の業績については「増収増益は円安によるものかもしれないし、国内が厳しい中で、北米の好調さに支えられた面もある。企業の合理化努力で得られた結果でもあり、歓迎すべき内容だ」と評価した。来年の経営環境については「国内販売は厳しいが、北米市場は今年よりも良くなる」とし、米国の景気回復に支えられる傾向が続くとの見方を示した。



自動車部品会館にリケジョが集合 自動車部品メーカーを身近に

一般社団法人自動車部品工業会 広報部会 事務局 持丸慶

自動車部品業界×リケジョ

自動車部品会館に約60人の理系女子学生が集結した。自動車部品メーカーをより知るためのキャリアイベントで、一般社団法人理系女子学生未来創造プロジェクトが主催した。ジャトコとマーレジャパンが共催し、ナレッジハンズの運営で11月3日(火)の13時から17時にわたって行った。日本自動車部品工業会は理系女子大生コミュニティ凛（学生団体）と共に後援団体として支援した。18大学の約60人の理系女子学生が来場し、共催の2社に加え市光工業と曙

ブレーキ工業、日本発条、日立オートモティブシステムズ、カルソニックカンセイの合計7社が企業として参加した。

活躍の場を紹介

当日は主催の理系女子学生未来創造プロジェクトの学生メンバーが挨拶。引き続き3つの講演会を開催した。まず、日経WOMAN副編集長藤川氏が「活躍するリケジョのキャリアと“働く私”を好きになるヒント」をテーマに、多くのリケジョの先輩のキャリアプランを紹介し、会場からは「色々な働き方があり参考になった」などの声があった。

2つ目の講演は、当会技術顧問松島氏が「これからの女性技術者に期待される夢と要件～自動車産業の発展と未来」をテーマに、自動車部品産業の位置づけや自動車産業の歴史から、求められる人材まで幅広い内容を講演した。学生は、熱心にメモをとって、「新たな知識を得ることができ、今後理系が必要とされることも分かり、興味深い話だった」など今後のキャリアプランの参考にしている様子だった。

「これからの女性技術者に期待される夢と要件～自動車産業の発展と未来」をテーマに、自動車部品産業の位置づけや自動車産業の歴史から、求められる人材まで幅広い内容を講演した。学生は、熱心にメモをとって、「新たな知識を得ることができ、今後理系が必要とされることも分かり、興味深い話だった」など今後のキャリアプランの参考にしている様子だった。

内閣府男女共同参画局の市川氏は「政府の女性活躍の取組と理工系女子のキャリア」をテーマに講演。学生からは、「女



性がもっと社会で活躍できるための取り組みが分かった」などの声があり、企業を見る際のチェックポイントのひとつとしていた。講演の間に設けられた休憩時間には、女子学生向けイベントならではのスイーツタイムで、シュークリームが配られた。

先輩社員と交流会も

会場では参加学生と参加企業の理系女子の先輩との交流会も開催した。7つのテーブルに分かれて、約1時間の間に、各社の担当者が、テーブルを順番にまわり、仕事内容や、会社を選んだ基準、家庭との両立など多岐に渡った学生からの質問に対し、理系女子の先輩として自らの体験も踏まえ

て疑問に回答するなど和やかな雰囲気の中で熱心なディスカッションを繰り広げた。

自動車部品会館での開催をいかし、3、4階にある自動車部品ショールームで参加企業の展示施設での説明や、その他の部品メーカーの見学も実施した。自動車部品を初めて間近に見る理系女子も目立ち、各社の展示見学中に展示されている部品を見て「綺麗、カワイイ！」との声も聞こえていた。

当会では引き続き学生向けのイベントなどを支援して、自動車部品産業の認知向上活動をしていく考えで、会員各社のアピールの場としての活用を促進していくことにしている。



《参加学生の感想（一部抜粋）》

- ・自分の専門分野（生物）で、今まで自動車部品業界について、まったく興味がなく知らない分野であったが、こんなにも多くの分野があることが分かり、興味の無い分野に触れることで、自分の視野が広がって、興味を持つことが出来た。
- ・就活のことや育児と仕事の両立について聞くことができて、働いてからのイメージがわき、参考になった。
- ・自分の将来を考えるきっかけとなり、そのためには、知らない業界について知ることの意味があると感じた。
- ・交流会の中の話から、専門知識だけでなく、女性視点が重要ということを知ることができた。
- ・展示施設では、専門用語の解説と、部品の名称だけでなく、その部品が果たしている役割の説明が欲しい。

東京モーターショー共同出展

会員企業の技術を世界にアピール

世界11カ国から合計160社が参加した第44回東京モーターショー2015。東京ビッグサイトにおいて10月29日（木）から11月8日（日）までの11日間の会期で開催された。各種イベントやシンポジウム等も開催され、11日間で約812,500人が来場した。

日本自動車部品工業会では、毎回、東京モーターショーにおいて会員企業による共同出展を行っており、今回は9社の会員企業が出展した。東京モーターショーはイベントとしての規模が大きく、多くの来場者があるため、企業によっては知名度アップや新たなビジネスチャンスの可能性も見込めることから出展する意義は大きいといえる。

今回の東京モーターショーでは、会期中を通じて各社のブースで最新技術による製

品を展示した。ブースの配置も東2ホールのメイン通路に面しており、向かいにはメルセデス・ベンツを始めとするカーメーカー各社が展示しており絶好のロケーションとなった。そのためブースでは多くの来場者で賑わい、各社の担当者が来場した人へ丁寧に質問に対して説明をしていた。

JAPIA共同出展ブース



共同出展した会員企業は次の通り。

株式会社アーク

大阪府大阪市中央区南本町 2-2-9
<http://www.ark.co.jp>

アークは新製品の開発を総合的にサポートできる世界5極に展開しているグローバル企業です。私たちは世界トップクラスの設備力と製造キャパシティ、蓄積された製造ノウハウ、及び各分野のプロフェッショナルといった立場に決して甘んじることなく、常に新素材、新技術への探求を続け、変化する時代のニーズに対応させて頂き世界中、



ベローズ加工イメージ

いつでもどこでも皆様の最良の開発パートナーとしてあります。

株式会社アステア

岡山県総社市真壁 1597
<http://www.asteer.co.jp>

アステアは、より快適な車社会の実現に貢献する自動車部品メーカーとして、常に進化と創造にチャレンジして行くグローバルサプライヤーです。私たちは、開発力・コスト競争力を高め、特許製品を中心に「価値創造・提案型企業」として世界の自動車メーカーから信頼と共感を得る企業を目指しています。常に進化と創造にチャレンジしていくグローバルサプライヤー、それがアステアです。



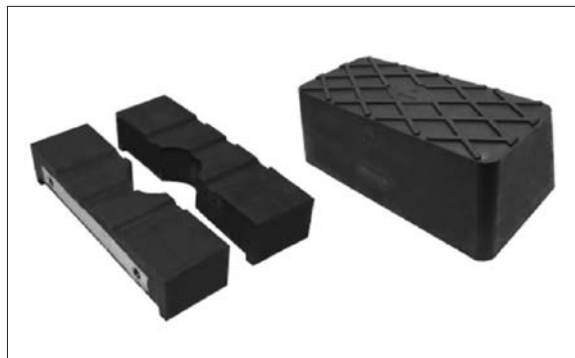
キャップレスフィラパイプ

大野ゴム工業株式会社

東京都港区虎ノ門 1-8-11 (5825 第一ビル)
<http://www.ohno5825.co.jp>

創業74年を迎え、様々な部品を生産・販売する大野ゴム工業は100年企業を目指すべく、「未来に挑戦、未来を創造」というスローガンの下、既存のゴム部品からゴム以外の部品も手掛け、お客様のニーズを的確に捉えた最適なソリューションを提案し続けてまいります。

また、製造・技術・営業部門が連携し、お客様



リフト用ゴムパッド・サイドシールブロック

に迅速且つ柔軟な対応を心掛け、信頼される品質を提供し社会に最良の貢献を致します。

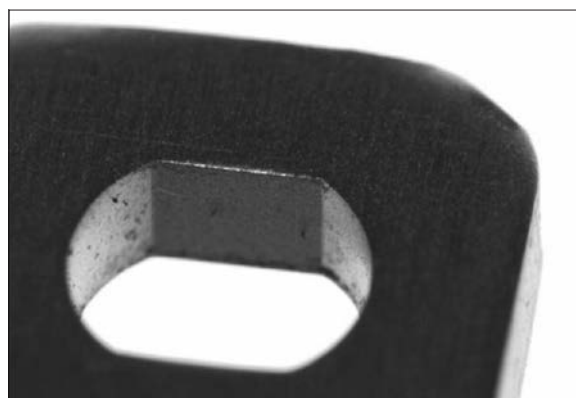
協栄プリント技研株式会社

東京都調布市多摩川 1-21-1
<http://www.kpg.jp>

1967年の創業以来、機能性フィルム・樹脂等のプレス金型設計製造・彫刻刃型等の切断刃型に特化し、国内4拠点・海外5拠点で展開しております。

日本をはじめとする先進国市場ではハイブリット車や電気自動車といった次世代自動車のニーズが年々高まるなかエレクトロニクス・電子部品業界で培った、高精度な金型技術が自動車部品産業でも求められています。

協栄プリント技研では、次世代のモノづくりを



放熱基板のファインブランキング

支えるためにお客様に最適な打ち抜きソリューションを提案していきます。

西岡可鍛工業株式会社

愛知県豊田市吉原町平池 88
<http://www.nishioka-mountain.co.jp>

鍛造企業として創業開始70年車メーカー1次協力企業として50年mountain ブレーキディスクを造り続け40年の実績を誇る西岡可鍛工業(株)です。

顧客満足が一番の目標に掲げ現代社会の車に求められている軽量化をメーカー様と共に追及し、燃費向上に協力させていただいております。

ディスクブレーキに関しては最大年間20万枚の製造実績を基に、通常使用向・サーキット仕様向けの材質テスト・開発・製造と販売を行っており、



デファレンシャルケース素材

ご高評をいただいております。非対応車種にも対応すべく順次開発をしております。

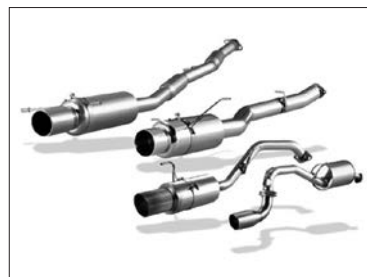
藤壺技研工業株式会社

神奈川県横浜市西区浅間町 3-204-17
<http://www.fujitsubo.co.jp>

FUJITSUBOは、1931年の創業以来、各時代を先取りした「最高の製品を生み出すこと」をモットーに、オリジナル製品の生産に専心してきました。

1997年に品質の国際規格ISO9001の認証を取得したことは、永年に渡って培ってきた経験と技術を次世代に伝えるとともに、高品質・高性能が信頼の基盤となり、お客様と社会のお役に立てるよう努力を続けることを約束した当社の姿勢を表しています。また、近年は騒音・環境問題にいち

早く取り組み、2003年3月には自社に車外騒音測定用路面を設置してJIS Q 17025:2005 試験場認証を取得しました。



レガリスシリーズ

「斬新なアイデアと最新鋭技術で、私たち自身が納得のゆく製品を創り出す」という精神は、創業時から現在に至るまで一貫して当社の原動力となっています。これからも常にお客様の気持ちになって心のこもった製品を製作していきます

丸子警報器株式会社

長野県上田市上丸子 1880
<http://www.maruko-horn.co.jp>

1949年の創業以来、自動車用ホーンの専門メーカーとして主要自動車メーカー各社に納入実績を持ち、更に独自のブランドによって国内及び世界のマーケットに製品を提供しています。現在、MARUKO HORN・ELEPHANT HORN・SAFETYHORNの製品は世界中で愛され親しまれています。グローバル環境下で優れた機能と安全性を発揮するために、3D プリンターや実車音圧測定室など最新の開発・解析・研究設備を用い、



ハイウェイホーン

合理性を追求した生産管理、全社的な品質保証体制の下、独自開発した自動部品加工ライン、組立・調整・検査の全自動組立ラインにより高品質・低コストな製品づくりを行っています。

やまと興業株式会社

静岡県浜松市浜北区横須賀 1136
<http://www.yamato-industrial.co.jp>

やまと興業社員一同は、「ものづくり」に誇りをもち、クリエイティブな製品開発に挑む技術者集団として、日本のオートバイにとどまらず、世界のマーケットに向けて大きく翔んでいます。二輪、四輪用コントロールケーブルでは、業界初となるΦ 3 ミリ径小ケーブルを開発し、軽量化とスペース効率を追求します。エンジン冷却、潤滑用パイプでは、極小0.6 R 曲げ技術と様々な接合技術を有しお客様のニーズに応えます。センサー部門で



コントロールケーブル

は3Dプリンターの活用で、短期間での開発を可能にしています。

株式会社ワイピーシステム

埼玉県所沢市牛沼 607-6
<http://www.yp-system.co.jp>

ワイピーシステムは①防災製品の製造・販売、②受託研究開発、③めっきやアルマイトなどの金属表面処理加工を行っています。防災製品は二酸化炭素消火器具とした消火システムや自動車用緊急脱出ツールなどの防災製品を中心に扱っています。受託研究開発は国などから研究費を受託し、防災製品の開発や次世代表面処理技術の開発を行っています。

金属表面処理加工はニッケルやクロムなどの金

属めっき、アルマイト処理および独自技術である低温黒色クロムおよびカラーCB処理を行っています。

次世代のめっき技術および二

酸化炭素消火システムや防災システムについて多くの特許を取得、申請しています



消棒RESCUE

欧州に押し寄せる難民の影響と今後の課題

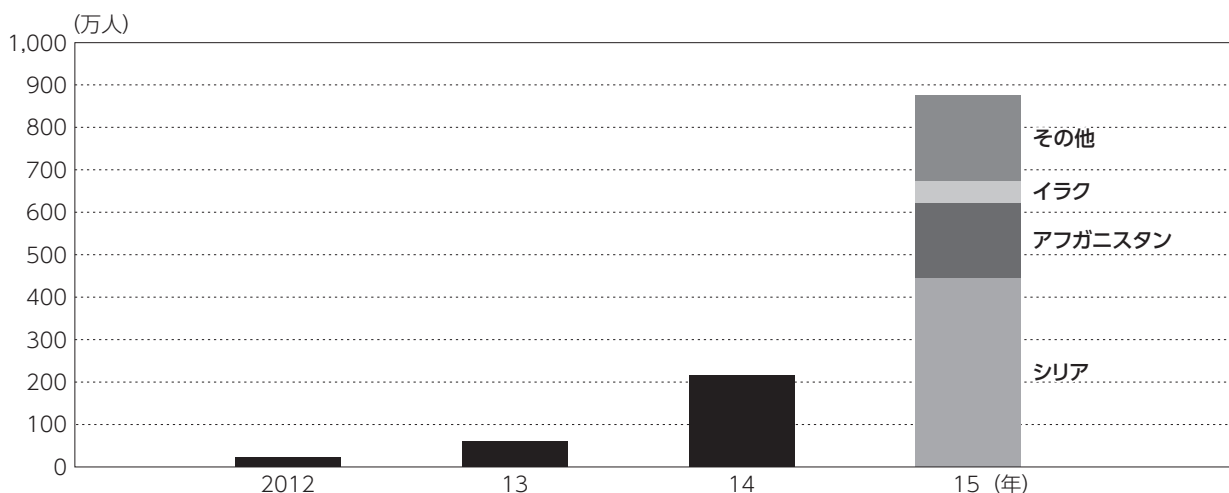
欧州経済は2008年のリーマンショックによる落ち込みや、2010年からの南欧諸国を中心とした政府債務問題を経て2013年以降徐々に立ち直り、2015年も7～9月期まで1%台半ばでの緩やかな回復が続けている。一方で、2015年はギリシャ債務問題やフォルクスワーゲンのディーゼル排出ガス不正問題、そして11月13日に発生したパリ同時多発テロ事件と、多くの課題に直面した一年となった。

その中でも、2015年を通じて大きく報じられたのが、内戦が続くシリアからの脱出者を中心に欧州へ押し寄せた難民の問題である。昨年9月にドイツのメルケル首相が80万人の受入を表明して以降、ドイツを目指す難民が一気に増え、地中海経由で欧州へ流入した難民は2015年11月時点で既に80万人を超え、今後もシリアの混乱が続けば、数百万人に上る可能性もある（図表1）。EU諸国の難民対応は各国間で温度差が大きく、ドイツでは難

民受入に積極的な姿勢を見せるが、難民の最初の到着国であるギリシャやイタリアでは、短期間に大量の難民が流入し、収容の限界を超えたとして、到着する難民全ての受け入れを放棄した。ハンガリーなどでは流入阻止のため国境を封鎖する動きもみられる。9月のEU首脳会議ではEU全体で16万人の難民受入を決めたが、東欧諸国の一部は受入分担を拒否している。

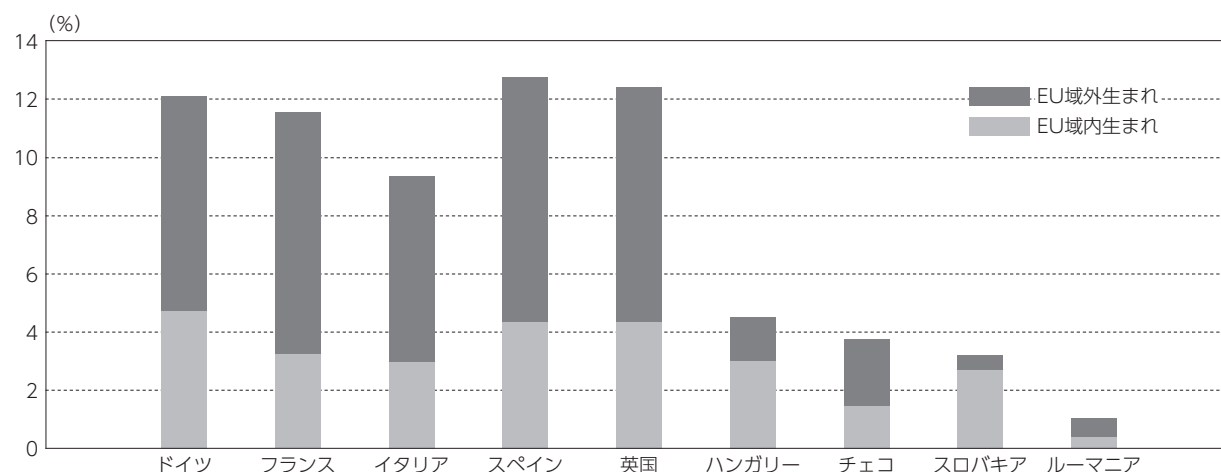
昨年11月に欧州委員会は、今回の難民流入による経済面での影響の試算を公表した。短期的には、難民の生活支援などに伴う財政支出（対GDP比0.2%程度）が成長率を押し上げると想定している。それ以上に重要なのは、中長期的には難民が、EUの労働力不足を補完する役割を担う可能性があるとの指摘である。日本と同様、今後はEUでも少子高齢化が進む。特に、ドイツでは、2050年にかけて15～64歳の人口が2割以上減少すると見込

（図表1）地中海経由で欧州へ流入した難民



（備考）1.UNHCR 2.2015年は11月2日時点

(図表2) 人口に占める移民の割合 (2014年)



(備考) Eurostat

まれており、労働供給への悪影響が避けられない。今回の難民は労働力として期待できる比較的若い世代が多いとみられる。今後、学校教育や職業訓練を積み、社会に溶け込みながら労働参加が進展する場合には、2020年時点でEUのGDPを0.3%近く押し上げる可能性が示されている。

一方、難民受入の課題も出てきている。EUへの難民申請は、昨年時点で1990年代初頭の旧ユーゴスラビア紛争時に匹敵し、今年は過去最高を更新する見通しである。大量の難民流入にEU側の対応が追いついておらず、旧ユーゴスラビア難民を大量に受け入れた経験を持つドイツでも受入を制限すべきとの声が上がっている。東欧諸国では、人口に占める移民の割合は5%にも満たず、西欧諸国の1割余りを大きく下回る(図表2)。移民や難民の受入の経験が浅いこれらの国では、文化や宗教の異なる難民が大量に押し寄せることに対して、特に抵抗感が強い。このほか、ドイツは戦後のトルコ移民の受け入れも経験し、社会適応促進のための政策に取り組むが、いまだに適応は容易ではない。EUの失業率をみると、移民の失業率は自国民よりも高く、

EU域外からの移民の失業率は20%を超えている。文化や言語の違う移民や難民が労働力として定着するのは容易ではないとみられる。

昨年6月のデンマークの総選挙では、反移民を掲げる国民党が議席を伸ばして第2党へ躍進した。また、同10月のスイスの総選挙でも反移民を掲げる国民党が第1党へ躍進したほか、ポーランドでは、難民の受入に否定的な「法と正義」が勝利し、政権交代をするに至っている。今後は、パリ同時多発テロ事件を契機に各国で移民や難民の受入に反対する動きが勢いを増し、政治体制の不安定化などに発展する可能性が一層高まるとみられ、EU諸国は難しい舵取りを迫られることになる。

参考文献:

European Commission (2015) *European Economic Forecast, Autumn*

UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) (2015)

Map New Asylum Applications Europe, November
<http://data.unhcr.org/syrianrefugees/asylum.php>

日本政策投資銀行 (2015) *DBJ Monthly Overview*, 12月号

工業会業務レポート

委員会活動

総務部

●業務報告【10/16～12/15】

10月22日 正副会長等打合せ会、理事会 平成27年度上半期事業報告及び上半期収支決算報告他（経団連会館）

●行事予定【1/16～3/15】

1月21日 正副会長等打合せ会、理事懇談会 主要委員会活動報告他（東京プリンスホテル）
1月25日 政策委員会 平成28年度事業計画及び収支予算他（WTCコンファレンスセンター）

業務部

●業務報告【10/16～12/15】

11月4日 中小企業施策委員会 仮想展示会、技術展示商談会について検討を行った。（部品会館）
11月16日 自動車総連とのトップ懇談会 自動車部品産業の課題について意見交換を行った。（芝浦）
11月19日 BCPセミナー 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様（部品会館）
11月26日 経営調査部会 2015年度中間期の自動車部品工業の経営動向（案）について検討を行った。（部品会館）
11月30日 BCPセミナー 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様（太田商工会議所）
12月1日 BCPセミナー 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様（ウィンクあいち）
12月1日 補修部品用品委員会 講演会 補修部品の動向と展望に関する講演会を開催した。テーマ：「最近の国内補修部品市場・ビジネスの動きと今後の展望等について」講師：(株)ジェイシーレゾナンス 代表取締役社長 松永博司 様（部品会館）
12月3日 BCPセミナー 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様（部品会館）
12月4日 BCPセミナー 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様（大阪商工会議所）
12月11日 BCPセミナー 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様（ウィンクあいち）
12月14日 調達・生産部会 自動車適正取引化研究会の結果の報告及び今後の対応について検討を行った。（部

品会館）

12月15日 BCPセミナー 事業継続力強化の講習会と、BCPの演習セミナーを開催した。講師：(株)インターリスク総研 事業リスクマネジメント部 事業継続マネジメントグループ 上席コンサルタント 田代邦幸 様 上席コンサルタント 下平庸晴 様（部品会館）

●行事予定【1/16～3/15】

1月25日 政策委員会と自動車総連との懇談会（浜松町）
2月8日 人財・労務部会（講演会）（部品会館）
2月25日 経営調査部会（部品会館）
3月2日 技術展示商談会（UDトラックス(株) 本社・上尾工場）
3月11日 総務委員会（部品会館）
3月17日 中小企業施策委員会（経団連会館）

国際部

●業務報告【10/16～12/15】

10月16日 TPP自動車分野大筋合意説明会 経済産業省自動車課からTTP大筋合意に関する情報提供（くるまプラザ）
10月26日 北米市場報告会 北米市場に関するセミナー（部品会館）
10月28日 米欧歓迎夕食会 日米欧三極会議出席者歓迎夕食会（品川）
10月29日 日米欧三極自動車部品会議 事務局会合（ホテルインターコンチネンタル東京ベイ）
10月30日 日韓自動車部品工業協議会 1) 開会・両国代表挨拶 2) 出席者紹介 3) 両国プレゼンテーション 4) 質疑応答（ホテルインターコンチネンタル東京ベイ）
11月27日 知的財産権部会 1) 知財関連事項の説明 2) 【報告】WGの活動について 3) 【意見交換】来年度活動計画 4) 【講演】トヨタ自動車(株) 知的財産部長 近藤健治様（部品会館）
12月8日 国際委員会 1) 最近の情勢 2) 本年度事業の進捗 3) 他（部品会館）

●行事予定【1/16～3/15】

1月29日～2月5日 UAE国内模倣品対策活動ミッション UAEにおける模倣品の実態調査、関係機関への訪問（ドバイ、シャルジャ）
2月18日 FTA・通商部会 1) 最近の動向 2) 本年度事業の進捗状況 3) 来年度事業計画 4) 他（部品会館）
3月8日 国際委員会 1) 最近の情勢 2) 本年度事業の進捗 3) 他（部品会館）

関東支部

●業務報告【10/16～12/15】

11月12日 関東支部メキシコ自動車産業視察ミッション参加者反省会（部品会館）
11月19日 関東支部拡大運営委員会・懇親会 関東支部事業報告（上期）メキシコ自動車産業視察ミッション実施報告（八芳園）
12月1日 講演会（本部と共催）「最近の国内補修部品市場・ビジネスの動きと今後の展望等について」(株)ジェイシーレゾナンス 代表取締役社長 松永博司 様（部品会館）
12月3日～4日 第3回関東支部企画部会 27年度事業報告および評価について 28年度事業要望調査の結果について 28年度事業計画(案)の検討について（NOK(株) 熊本事業場）

●行事予定【1/16～3/15】

- 1月21日 新年懇親会（東京プリンスホテル）
2月頃 第4回関東支部企画部会 アルパイン(株)（いわき本社）
2月18日 関東支部会員会社情報交流会 工場見学会
2月19日 関東支部会員会社情報交流会 懇親ゴルフ会
3月23日 関東支部運営委員会 平成26年度事業報告（仮）
平成27年度事業計画（案）（八芳園）

中部支部

●業務報告【10/16～12/15】

- 10月20日 事例選考会(環境部会) 代表事例の選考（名古屋栄ビル）
10月22～23日 ISO14001：2008 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
10月27日 北米報告会「北米自動車産業の現状と展望」 JAPIA北米事務所 代表 河島哲則氏（名古屋栄ビル）
10月27～28日 AIAG, コアツール実践2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
10月29日 優良企業工場見学会（中小企業部会）ダイキン工業(株)滋賀製作所（滋賀県草津市）
11月13日 講演会（中小企業部会）「和時計から日本のものづくりを考える」ナルセ時計(株) 代表取締役 成瀬拓郎氏（名古屋栄ビル）
11月19～20日 ISO/TS16949：2009 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
11月19～20日 ISO9001：2008 内部監査員2日間セミナー（刈谷市産業振興センター）
11月27日 環境保全に関する講演会・事例発表会「東芝グループの環境経営」(株)東芝 環境推進室長 実平喜好氏「新しい競争ステージに入った世界の自動車産業」(株)フォーイン 取締役副社長 久保鉄男氏 事例発表会（13事例）（名古屋市工業研究所）
12月4日 第2回運営委員会 上期事業・決算報告（名古屋市内）
12月8日 海外視察報告会 北米自動車産業視察報告会（名古屋市内）

●行事予定【1/16～3/15】

- 1月27日 講演会（環境部会）「ISO14001改訂情報と企業の対応」中部大学 准教授 伊藤佳世氏（名古屋栄ビル）
1月29日 優良企業工場見学会（中小企業部会）本田技研工業(株)鈴鹿製作所（三重県鈴鹿市）
2月4日 支部懇談会・懇親会 賀詞交歓会（名古屋市内）
2月12日 優良施設見学会（環境部会）味の素(株)東海事業所（三重県四日市市）
2月18日 講演会（中小企業部会）「2025年の電動パワートレイン市場」野村総合研究所（名古屋栄ビル）
3月9日 優良施設見学会（環境部会）(株)小松製作所 栗津工場（石川県小松市）

関西支部

●業務報告【10/16～12/15】

- 10月21日 生産分科会 委員会・ご指導会・工場見学会「現場改善を通じたイノベーション」(株)柿内幸夫技術士事務所 柿内幸夫氏（(株)アステア 本社）
11月5日 技術分科会 異業種見学会（防衛省 技術研究本部 先進技術推進センター）
11月24日 総務分科会 メンタルヘルスセミナー「社員が

“うつ”で休んだら？～会社ができる対応・サポート」(株)東芝 本社 産業医 増田つかさ氏 産業医科大学 医学部 精神医学教室 臨床心理士 松元知美氏（ホテルグランヴィア大阪）

- 11月25日 品質分科会 ISO/TS16949:2009 規格解説セミナー（エル・おおさか）
12月8日 総務分科会 メンタルヘルスセミナー「社員が“うつ”で休んだら？～会社ができる対応・サポート」(株)東芝 本社 産業医 増田つかさ氏 産業医科大学 医学部 精神医学教室 臨床心理士 松元知美氏（ホテルグランヴィア岡山）
12月11日 第3回正副支部長会・第2回運営委員会・情報交換会・講演会・懇親会「アセアンの経済統合と日本企業のビジネスチャンス」京都大学 大学院 経済学研究科 教授 塩地洋氏（オリエンタルホテル広島）

●行事予定【1/16～3/15】

- 1月27日 技術分科会 異業種見学会（防衛装備庁 陸上装備研究所）
2月3日 生産分科会 委員会・工場見学会（(株)エクセディ 上野事業所）
2月5日 補修部品分科会 見学会（大阪ガス(株) 泉北製造所／ガス科学館）
3月4日 第4回正副支部長会・第3回運営委員会・分科会リーダー会・情報交換会・講演会・懇親会（ホテルグランヴィア岡山）
3月9日 総務分科会 勉強会

技術関係委員会等の開催状況 (10/16～12/15)

1. 総合技術委員会

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月30日	ITS部会幹事会	自動車部品会館	1) SIPの対応について 2) ITS部会の開催について
11月5日	平成27年度 第3回総合技術委員会	自動車部品会館	1) 環境問題への対応について 2) 電子情報化への対応について 3) 基準・認証制度への対応について 4) その他 各委員の情報交換
11月12日	国際標準化検討幹事会	自動車部品会館	1) 自工会との協力体制について

2. 基準認証部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月23日	基準認証部会	コンファレンス プラザ 大阪御堂筋	1) インドWG 活動状況 2) 中国WG 活動状況 3) ASEAN-WG活動状況 4) WP29参加について 5) 各国情報 6) JASIC情報
11月9日 ～15日	UN/ECE/WP29会議	ジュネーブ	1) CLEPA/MEMA/JAPIAミーティング

3. IT対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月16日	DE促進部会幹事会 DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
10月19日	EDI部会	自動車部品会館	1) 平成27年度の活動中間報告について
10月20日	IT対応委員会幹事会	自動車部品会館	1) 平成27年度の活動中間報告について
10月27日	IT対応委員会	自動車部品会館	1) JNXセンター報告について 2) 平成27年度の幹事会の中間報告について 3) 平成27年度のDE促進部会の中間報告について 4) 平成27年度のEDI部会の中間報告について
11月10日	DE促進部会OEM CAD-WG	矢崎総業 (御殿場)	1) JAMAガイドラインの要約と成果物への反映について
11月11日	DE促進部会3D-CAD新技 術調査WG	安保ホール	1) セキュリティ講演会の企画について
11月20日	DE促進部会幹事会 DE促進部会	自動車部品会館	1) 全体報告について 2) WG報告について 3) 幹事会報告について 4) その他(困り事相談、情報交換等) 5) WG活動
12月1日	DE促進部会 構造改革WG	アイシン精機 (刈谷)	1) 実機検証会打合せ
12月9日	DE促進部会 構造改革WG	スタンレー電気 (宇都宮)	1) 実機検証会打合せ
12月10日	DE促進部会 3D-CAD新技術調査WG	自動車部品会館	1) アンケート打合せ

4. 環境対応委員会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月19日	環境対応委員会幹事会	刈谷市産業振興 センター	1) 各部会・分科会の本年度活動計画の報告 2) 総合技術委員会報告 3) 事務局情報
10月21日	JAMAシート改訂および BPR説明会(東京)	日比谷 図書文化館	1) JAMAシート ver.2.32変更内容説明 2) GADSL改正情報解説 3) IMDSリリース10対応解説 4) 欧州殺生物性製品規則対応について 5) 質疑応答

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月22日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 各部会活動報告 2) 欧州・北米出張報告 (REACH TF & AIAG-Conference) 3) 東南アジア出張報告 4) JAMAシート改正関連およびBPR調査対応に関する説明会について
10月22日	温暖化防止推進分科会	自動車部品会館	1) 分科会全体日程 2) CO2削減シナリオTF 3) 事例・情報展開TF
10月23日	製品環境部会	自動車部品会館	1) 各部会活動報告 2) 欧州・北米出張報告 (REACH TF & AIAG-Conference) 3) 東南アジア出張報告 4) JAMAシート改正関連およびBPR調査対応に関する説明会について
10月28日	JAMAシート改訂およびBPR説明会 (名古屋)	名古屋市工業研究所	10/21と同じ
10月29日	環境対応委員会	東京ビッグサイト	1) 環境対応委員会関連会議経過報告 2) 各部会・分科会等のH27年度活動計画案並びにトピックスの報告 3) 事務局情報
10月30日	工場用化学物質分科会	自動車部品会館	1) ガイダンスグループの進捗報告 2) 法規制調査グループの進捗報告 3) GLAPS会議グループの進捗報告
11月9日	LCAデータWG	アイシン精機本社	1) 活動内容まとめ 2) 2015年度活動今後の予定
11月9日	国際イベント準備委員会	自動車部品会館	1) 全体日程・担当について 2) プレゼンターへの現行作成依頼について
11月11日	物質調査システム分科会幹事会	自動車部品会館	1) 自工会物質調査あり方TFについて 2) IMDS-SCでのChemistry Manager 渉外について 3) GASG会議について
11月13日	LCA使用段階検討WG	自動車部品会館	1) 活動内容まとめ 2) 2015年度活動の進捗と今後の予定について
11月13日	LCA分科会	自動車部品会館	1) 各WG進捗状況報告 2) LCA日本フォーラム表彰応募に関して 3) 今後の予定
11月26日	化学物質規制対応分科会幹事会	自動車部品会館	1) 各国法規制動向 2) 物質精査活動 3) 自工会情報 4) 欧州情報 (ACEA REACH TF等)
11月27日	製品環境部会幹事会	自動車部品会館	1) 総合技術委員会結果報告 2) 自工会情報 3) 欧州情報 (ACEA REACH TF等)
12月3日	国際イベント準備委員会	自動車部品会館	1) プレゼンター招聘状況 2) パンフレットについて 3) 参加費について

5. 品目別部会関係

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月22日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) 第67回ISO国際会議 (フランス) 出席報告について 3) アクションアイテム確認と対応審議について 4) JASO D603 アルミ電線規格、2次案作成審議について
	チャイルドシート分科会	自動車部品会館	1) インフォーマル会議報告 2) GRSP対応方針案作成について
	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) 2016年版JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について 4) 自協会関連について
10月29日	エアバッグ分科会	自動車部品会館	1) R95及びR13Xについての各社検討状況についての情報交換 2) CLPの各社での対応状況について 3) BAM Module D定例監査の各社対応状況について情報交換 4) 欧州向けのコーションラベル記載についての情報交換 5) CAMDS登録についての情報交換 6) エアバッグインフレーターやプリテンショナー等MSDS(SDS)の作成/管理部署MSDSに記載の連絡先、客先との窓口部署について

日 時	会 議 名	開催場所	概 要
10月30日	JIS小委員会、 濾器技術部会	自動車部品会館	1) オイルフィルタJIS原案審議 2) ISOサンディエゴ会議出席報告 3) 自技会フィルタ分科会関連
	シート技術研究発表会	コクヨホール	1) 研究発表会
11月6日	レストレイント部会 幹事会	自動車部品会館	1) H27年度上期活動報告 2) 合同会議・企画
11月10日	GTB対応会議、 ランプ部会	自動車部品会館	1) 第120回GTB会議出席計画について 2) 中国CCC認証の最新情報について 3) 第74回GRE会議出席報告について
11月20日	PT熱交換器分科会	自動車部品会館	1) “JIS D 1614放熱性能試験方法の改訂” について
11月27日	車輪技術部会	自動車部品会館	1) ISO対応について 2) JATMA YEAR BOOK R章改正について 3) ホイールの各国部品認証対応について
12月3日	電線部会	自動車部品会館	1) 前回議事録確認について 2) 第68回ISO国際会議アクションアイテム対応審議について 4) JASO D603 アルミ電線規格、2次案作成審議について
12月3日 ～4日	オイルシール技術部会	豊岡	1) JIS-ISO整合化作業について 2) ISO審議状況等
12月4日	GTB対応会議、 ランプ部会	自動車部品会館	1) 第120回GTB会議出席報告と今後の課題について 2) 中国CCC認証の最新情報について
12月7日	摩擦材技術部会	自動車部品会館	1) ISO会議出席報告について 2) 自技会ライニング分科会関連について 3) 来年度活動計画、予算について
12月8日 ～9日	レストレイント部会 秋季合同会議	プラトンホテル 四日市	1) 平成27年度上期部会・分科会中間活動報告 2) 平成27年度部会・分科会中間会計報告 3) PR活動について 4) 国内外法規動向等の情報 5) 12/9 三菱化学株式会社 四日市事業所 見学

●行事予定〔1/16～3/15〕

月 日	会合名称など	概 要	場 所
1月18日	環境対応委員会幹事会		刈谷産業振興会館
//	QRTV-WG		自動車部品会館
1月20日	ITS部会		自動車部品会館
1月21日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
//	車輪技術部会		自動車部品会館
1月22日	製品環境部会		自動車部品会館
//	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	シート部会		自動車部品会館
1月25日	PT熱交換器分科会		自動車部品会館
1月26日	環境対応委員会		自動車部品会館
1月27日	製品環境部会		自動車部品会館
2月4日	電線部会		自動車部品会館
2月5日	平成27年度第4回総合技術委員会		自動車部品会館
//	クッション性分科会		自動車部品会館
2月12日	DE促進部会 セミナー		自動車部品会館
2月18日	物質調査システム分科会幹事会		自動車部品会館
2月19日	製品環境部会幹事会		自動車部品会館
2月25日	製品環境部会		自動車部品会館
2月26日	DE促進部会幹事会		自動車部品会館
//	DE促進部会		自動車部品会館
//	ランプ部会		自動車部品会館
3月3日	DE促進部会 3D-CAD新技術調査WG		自動車部品会館
3月10日	DE促進部会 3D-CAD新技術調査WG		自動車部品会館

進化するクルマを支える ものづくり

JAPIA 北米事務所 河島 哲則

私は仕事柄、自動車組立工場や自動車部品製造工場をよく訪れます。日本企業もあれば米国、カナダ、メキシコの企業もあります。20年ほど前には東南アジアの国の工場にもよく行っていたものです。様々な業種で様々なものを造っている工場を訪れると、優れた業績を上げているところには幾つかの共通点があるということに気づきます。その共通点のうちのひとつは、優れた製造工場には必ず「ものづくり」が大好きな職人が少なくとも一人いるということです。彼らは皆例外なく、自分の工場から出て行く商品を誰よりも愛していて、お客が要求している品質仕様を満足するだけでは不十分で、とにかく世界に向けて「どうだ、こんなものは他の誰にも造れないだろう」と胸を張っている、それはもう素敵な人々なのです。

ものづくりの現場に接したことの無い人々にとって彼らは実に面倒な存在であるようです。何しろ「これで十分」と決して言うことがないので。それどころか「明日は今日より良いものを造ってみせる」と言い続けるのですから始末におえません。

ところでクルマという商品は近年「4つの車輪がついたスマートフォン」になりつつあるようです。少し前までは「地球の大気を汚す悪の象徴」でした。インターネットと結びつき、車載コンピュータとセンサーの力で周囲の状況を判断して自ら危険を回避することができる安全な乗り物になり、多量の石油を燃やさなくても走ることができるようグリーンな移動手段になり、そして自分で運転しなくてもよい動くリビングルームまたはオ

フィスあるいは会議室にもなりそうな気配さえあります。

これらのクルマが今後装備していく数々の機能はどれもクルマのオーナーの人生をより豊かにしてくれるものなので大歓迎です。もちろん現在の米国市場でアンケート調査をした結果、多くのドライバーは自分の新車に装備されているこれら最新のテクノロジーの大部分を全く使わないそうですから、今のテクノロジーはまだドライバーが利用するために多くの負担をかけられているということなのでしょう。そのことは今後のさらなるテクノロジーの進化を待つとして、もうひとつ期待したいことがあります。それはせっかくクルマが進化するのなら、自動車メーカーや自動車部品サプライヤーは新しい時代のクルマに、さらに素晴らしい「職人の技」を仕込む競争をしてもらいたいということです。

私が今乗っているクルマにもたくさんの新しいテクノロジーが搭載されていますが、何よりも嬉しいのは、助手席に乘せる私の愛する人の安全を、私の運転技術と反射神経が及ばない事態、つまり「いざという時」にこのクルマが守る手伝いをしてくれると信じさせてくれることです。そしてそれは世界中の数限りない職人たちの技がこのクルマのあらゆる場所に仕込まれていると感じさせてくれるからです。きっと彼らは「明日はもっと良いものを造ってやるからな」と思っていてくれることでしょう。世界中の頑固な職人たちに心から感謝します。

〈完〉

中部支部 中小企業部会主催 「ダイキン工業(株)滋賀製作所」視察報告

一般社団法人日本自動車部品工業会中部支部

中小企業部会 委員長 宮城 和弘 (記)

(やまと興業株式会社 取締役)

1. 日時

2015年10月29日 (木) 11:00～17:30

2. 視察先

ダイキン工業株式会社 滋賀製作所
(滋賀県草津市岡本町1000-2)

3. 参加者

中部支部会員企業 17社25名

4. 面談者

空調生産本部
企画部法規担当課長 山口義文様

5. 視察スケジュール

13:20～14:00 会社概要説明

14:00～15:30 工場見学

15:30～16:00 質疑応答

6. 訪問目的

ダイキン工業グループのエアコンのマザー工場の役割を担う滋賀製作所。空調機器の世界トップシェアを誇るメーカーを支える工場を環境・カイゼンの分野から見学し参考にさせていただく。

7. 会社概要

設立 昭和9年2月

資本金 850億円

売上高 1兆9150億円 (平成26年度/連結)

従業員 59,179名 (平成27年3月現在/連結)

8. 事業内容

「うるさら7」に代表される家庭用・業務用のエアコンをメインとした空調機器が売上高の89%を占める。化学部門ではフッ素を活用した製品開発が多く、スマートフォンの操作性向上などにも活用されている。他に、油機・特機・電子システム部門などがあり、滋賀製作所では、ルームエアコン・空気清浄機・給湯器などの開発・製造を行っ

ている。

9. 視察報告

新冷媒「R32」を世界で初めて採用したルームエアコンの技術に代表される空調機器の世界トップメーカーであるダイキン工業の見学ということで会員企業の関心も高く、25名の参加者が集まった。琵琶湖の南、草津市にある滋賀製作所は甲子園7個分の敷地で、約2000名の従業員が空調機器の生産に従事している。人口13万人の草津市では、草津名産は「ルームエアコン」と言われ、地域に愛される企業体質がうかがえる。その実例として、地域住民や従業員家族を招待する納涼祭や工場見学会、また廃水・排気処理施設を完備し、環境影響の抑制などに取り組んでいる。

草津田上インターから立命館大学キャンパスを回り込むように約5分で滋賀製作所に到着する。記念撮影後、会議室へ案内され会社概要、環境・カイゼンの取組みなど説明を受ける。環境への取組みには力を入れており、廃水処理場を敷地内に完備し、国の規制より厳しい社内基準値で管理され、防液堤の役割を果たす池では工場内の雨水がすべて流れ込むように設計し計測器で常時監視している。

事務棟の入り口には製品の展示スペースがあり、「うるさら7」の無給水加湿のデモやサーキュレーション機能付きエアコンの体験ができる。家庭用エアコン全製品に新冷媒「R32 (地球温暖化係数1/3)」が採用されたこと、エコキュートにはCO2冷媒、フィルターの自動清掃機能などの紹介があった。

工場見学に移ると、建屋自体は年代を感じるものの2Sが行き届いており、整然としたラインの中を多くの無人搬送車が部品を入れたバケットや完成前の室外機などを運搬し行きかっている。

室外機の生産ラインでは、約100種類の混流生産を可能としている。部品の供給は無人搬送車が必要なものを必要な時に供給することで、ライン周辺にはその後組み付ける数個の在庫しかない。

仕入れ先から納入された部品は、ラインの先頭に集めることなく必要な場所へ直接供給することでスペース削減を実現している。その取り組みでできた空いたスペースに仕入れ先製造ラインを取り入れることでさらに在庫削減し、リードタイムは68hから4.1hまで削減している。またラインを観察すると、いたるところにカイゼンが見て取れる。その中で特徴的なものは、できるだけエネルギーを使わないカイゼンである。部品の自重を利用したもの、ベルトコンベアーの力を利用し製品の横移動・回転・一時停止などの「からくりカイゼン」が多くみられる。

室内機の組立てでは、汎用製品の専用ラインとハイグレート製品のセルラインと2種類の生産方式を使い分けていた。セルラインでは、ペンのキャップレス、吊り下げられた電動ドライバーの定位置化など作業者が取り組んだカイゼンが随所に見られた。さらには、作業者全員をID登録し、作業者の身長によって作業台や部品の高さが自動で変更される仕組みが組み込まれていた。汎用ラインでは10cm・0.1秒にこだわったカイゼンが実施されており、タクト40秒で完成させている。

このように全社でカイゼンが浸透し、全員参加のカイゼン活動が根付いている印象を受けた。そして、カイゼン事例の展示スペースがあり「起き上がり街道」と名付けられている。このような展示はどこのメーカーでもあるが、こちらではカイゼンで失敗した事例を展示し、その解決した内容を実践に役立つようにしている。

冷媒の流れる配管の接続などは特殊工程とされ、作業者がトーチを使ってろう付けしていた。ここではマイスター制度を設け、A・B・Cの3段階でランク付けを行い、Cランクは生産に従事できないルールとなっている。その他にも、作業者の体調や個々のスキルが一目でわかるようにするなど、人による不具合の発生も抑制することで効率・品質を両立した工場となっていた。

10. 所感

空調機器のトップメーカーということで自動化・無人化が進み、見学をしても製品が流れているところを通路から見ただけかと不安もあったが、よい意味で裏切られた。全社一丸となってカイゼンを推し進め、高い領域での成果を実現していることが感じ取れる素晴らしい工場であった。また、工場見学も現場の監督者の方が直接案内し、生の声を聴くことができ、分かりやすく感謝している。会員企業にとって見習うところが多く、参考になる見学になったと確信する。

会社概要説明で案内された会議室に年頭所感が掲示してあり、「未来を創造し変化の時代を勝ち抜こう」と現状に満足せず、さらに上を目指すダイキン工業のさらなる躍進を想像させる工場であった。

最後に、この機会を準備いただいた中部支部、および快く工場見学に応じていただいたダイキン工業(株)滋賀製作所様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



パイプ加工のスペシャリストとして 顧客の問題解決に貢献する

伝統の多品種少量生産に磨きをかけ
新たな領域を開拓

江崎敏治社長



会社プロフィール



本部 〒143-0016 東京都大田区大森北1-1-10 大森シティビル9F
TEL.03-5767-7334 FAX.03-5767-7338

資本金 2500 万円

従業員 194 人 (2016 年 1 月 1 日現在)

事業所拠点 本社／東京都大田区大森北 1-1-10 大森シティビル 9F、栃木工場／栃木市岩舟町曲ヶ島 1932-1、EZAKI INDUSTRIAL (THAILAND) Co.,Ltd. (タイ)

代表者 代表取締役社長 江崎敏治

江崎工業は1948年の創業。商船学校を卒業し船員をへて戦前から事業を展開していた江崎社長の祖父が、自動車用パイプ製造会社として設立した。戦前は研究所を設立し、古紙再生にも取り組んだという研究畑の祖父。江崎社長は「中学生の頃、一緒に行った釣りで船のエンジンが故障したものの、祖父は普通に修理して帰ってきた」と当時を振り返る。江崎社長はヤナセをへて入社。歓迎会の席上、仕事上のことで男性の管理職と女性社員が口論する姿を目の当たりにして仕事にかける強い想いを実感したという。

独自技術をいかす

創業時の理念は変わらない。現在もパイプを軸に独自技術を発揮している。なかでも、じゃばらを利用してパイプを曲げつつ、振動を吸収するというベローズ管はエンジン回りを中心に欠かせない自動車用パーツだ。江崎社長は「祖父がベローズ管の開発に取り組んでいたことを思い出す」という。創業時の想いを背景に、ベローズの流れをくんで、現在開発力をいかし加工と製品化に注力する。

同社の特徴でもあるベローズ管は振動吸収だけでなく熱変化による膨張・収縮の吸収、さらには表面積が拡大することによる冷却効果があるという。現在のエンジンでも、常に振動するターボチャージャーの接続配管にかかせない。ターボチャージャーで過給するエンジンの採用が世界的に加速するなか、確実に需要は高まっている。EGR向けも同社の技術力を発揮する。現在はエンジン関連を主力としており、パイプ加工のスペシャリストとして商用車や産業用エンジン向けに供給する。

自社判断でタイへ進出

エンジン回りの配管システムはエンジンルームのレイアウトや補機類の装着によって微妙に変化する。それだけに、同社では迅速な開発と多品種少量生産体制に磨きをかけている。限られた期間内で開発し、求められる数量を確実に供給する体制だ。「自動化が難しいだけに、いかに人の力で効率よくすすめるか。ロボットや人の力を組み合わせて効率よく生産する仕組みを作り上げてきた」とする。こうしたなかで、国内生産体制の再編により「時代にあった姿」として競争力を



栃木工場外観



EZAKI INDUSTRIAL THAILAND



工場工程



ペロース他、特殊成形加工イメージ



ペロース加工製品



小物配管部品

高めると同時に、2006年には自社判断でタイに進出。100%出資子会社のEZAKI INDUSTRIAL (THAILAND) Co., Ltd.を設立した。また、01年からは世界的なパイプ部品メーカーであるシニア・フレクソニクスと業務提携し、グローバル化に対応している。

強い提案力で新規分野へ

パイプで培った力は今後にも大きくいかす考えだ。「技術を高め応用範囲を広げる。自動車で培った品質とコストを他業界で応用していく」とする。

産業用エンジン向けやEV（電気自動車）用など領域は広がる。生産面では多品種少量生産に「こだわり磨きをかける」とともに、基盤となる中量品のコストを含めた生産対応も強化していく。解析・評価を組み合わせる総合的な提案力も強化する。「垣根を設けずニーズをつかんでいきたい」と力を込める。

日本自動車部品工業会に対しては、「工場見学やバーチャル展示会構想など、単独ではできないスケールメリットを感じている」とする。グローバル化が加速するなかで期待は大きい。

自動車サプライチェーン全体の 負荷低減に向けて 海外サプライヤーとも 相互の信頼関係をさらに進める

Q

部会の活動内容を簡単に教えてください。

A

自動車製品に関わる環境規制に関連して、個社では対応が難しい課題（情報収集、当局・OEM等に対する渉外、物質調査の進め方など）を中心に、解決できるように具体的な方策を推進しています。推進にあたっては、自動車サプライチェーン全体の負荷低減に繋がるように、常に心がけています。

Q

部会の具体的な活動と注力していることは？

A

総合技術委員会委員と部会メンバーとの連携を視野に入れながら、物質調査・化学物質管理の背景知識・技術的知見・交渉力・人脈等を有するメンバー

を育成するとともに、部工会の活動範囲拡大・海外連携先との連携強化を目的としています。

- ・物質調査負荷の低減のため、日系OEMや欧米の部品工業会と連携して、物質調査ツールの適正見直しを進めています。
- ・化学物質管理として、自工会と連携し、新たな規制物質に関する影響評価や追加調査抑制を進めています。
- ・日米欧3極の部品工業会が連携し、サプライヤーアライアンス活動として、製品環境に関わる課題解決を共同で進めています。
- ・CATARC（中国自動車技術研究センター）に対して、中国における自動車に関する環境関係の法整備や、物質調査



製品環境部会
部会長 清水 康弘
(株式会社デンソー)

ツールについて、サプライヤー視点での情報提供や渉外活動を進めています。

Q

その他の活動や課題について教えてください。

A

- ・物質調査ツールとして会員の方に利用頂いている『JAMAシート』の整備を進めています。
- ・欧州ELV規制の適用除外見直しの渉外活動に、自動車部品の専門家の立場で参画し、活動を側面から支援しています。

Q

特筆すべき点やアピールするポイントは。

A

最近の3～5年間で、米国・欧州・中国のOEMや部品工業会と製品環

境活動に関してGive & Takeを続けてきた努力の甲斐もあって、欧州・中国を中心として各種会議体に参画できるようになり、最新情報の入手や日本の意見を反映できるようになってきました。今後も、相互の信頼関係を維持・発展させていくために、継続的な貢献活動が必要であり、メンバーの負荷増への対応や、若手の育成が急務だと考えています。



会員トピックス

ボッシュ日本本社に、「café 1886 at Bosch (カフェ・イチハチハチロク・アット・ボッシュ)」をオープン

ボッシュ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部ゼネラル マネージャー 下山田 淳さん

東京・渋谷のボッシュ日本本社1階に2015年9月、「café 1886 at Bosch (カフェ・イチハチハチロク・アット・ボッシュ)」がオープンした。ボッシュの設立年をネーミングしたカフェでは同社の歴史を紹介するとともに、同社の最新の製品やテクノロジー、サービスを紹介するショールームを併設する。同社の過去と現在、未来を伝える空間だ。ボッシュグループがブランドコミュニケーションの一環として一般の顧客向けに商業的なカフェを運営するのは世界でも初めての試みという。カフェとショールームで利用できる専用のアプリも配信する。コーポレート・コミュニケーション部の下山田淳さんにその想いを聞いた。

café 1886 at Bosch設立のきっかけは？

日本で生まれドイツで育ち、米国の大学を卒業した私にとってボッシュのブランドは、子供のころからガソリンスタンドなどで見て知っていた。ドイツの自宅には洗濯機や電動工具などボッシュの家電製品をはじめ、クルマ好きの父親の影響から親しみを持っていた。3年ほど前に転職しボッシュブランドを伝える側になったものの、自動車業界や関係者ののぞき認知度があまり高くないことに気付いた。自分に与えられたミッションは日本におけるボッシュのブランド認知をボッシュらしい方法で引き上げ、日本のボッシュ従業員により一層会社に対する誇りや愛着を持ってもらうこと。いかに引き上げるかを検討した。

グループで世界初のカフェとなる

研修でドイツ本社を訪問し、歴史資料館に触れた。1900年代初頭のボッシュの自動車パーツの販売店の内装を盛り込んだコーナーがあり、ボッシュの歴史を再現した空間でドイツの美味しいコーヒーとケーキを食べたいと思ったのがきっかけ。地道に年輪を重ねてきたボッシュの律儀さと正直さが醸

し出す雰囲気をも日本の皆さんに知ってもらいたい、体験してもらいたいと考え、日本の本社一階のスペースを利用してカフェを作り、ショールームを併設して来場を促すことにした。

実際の運営で注意した点は？

日本の巧みな技と高い接客マインドなど日本の長所を組み合わせる。日本人が得意とすることだから、良いパートナーを選べば絶対うまくいくと確信していた。カフェのアイディアは社内でも好意的だったものの、カフェがいかにブランド認知活動につながるのかといった説明は大変だった。ドイツ出張の際にもいろいろな部署に足を運んで説明した。2014年9月にはテストの意味で移動カフェを開催して、その知見を、実際の運営に活かすことができた。

今後の方向性は

オープン以来、メディアや来場客から予想を超える反響を頂いている。パワーツールや自動車のアフターマーケットを扱ったワークショップを開催し好評を博している。今後も年間を通じて活動を展開していく予定だ。世界中のボッシュ関係者から「うちでもやりたい」との声が届いており、グループ内で日本の存在感を示せたのは非常にうれしい。



行政・団体

10月.....

■特許庁、研究開発の意欲喚起 中小企業向けに新制度 (26日)

特許庁は、従業員が研究開発に取り組みやすくする「職務発明規定」の導入を中小企業に促す。

■国土交通省、VWの排ガス問題で不正ソフト禁止 (27日)

国土交通省は、ディーゼル乗用車などの不正な排ガス制御ソフトを禁止する告示改正案を公表した。

11月.....

■自工会、自動運転普及ビジョン策定 (7日)

日本自動車工業会は、自動運転技術の普及・促進するための「自動運転ビジョン」を策定した。

■国際基準見直しでミラーなし車両OK (10日)

来年6月にもドアミラーがない自動車認可される。

■経産省、なでしこ銘柄 3500社まで対象拡大 (10日)

経済産業省は女性の活躍を進める企業を選定する「なでしこ銘柄」の選定対象と基準を見直す。

■経産省、TPP相談窓口を設置 (10日)

経済産業省は、企業からの環太平洋経済連携協定 (TPP) に関する相談を受け付ける「TPP相談窓口」を設置した。

■公取委、TPP発行から2年以内に自動車市場の実態調査 (11日)

公正取引委員会は、国内自動車市場の実態調査を環太平洋経済連携協定 (TPP) 発効から2年以内に実施する。

■厚労省、都内で表彰式 現代の名工公表 (11日)

厚生労働省はこのほど、今年度の「現代の名工」を公表し、都内

で表彰式を開いた。

■国土交通省、死角事故減少へ近接視界基準を強化 (12日)

国土交通省は、車両周囲の近接視界基準を強化する方針だ。カメラシステムなども活用して死角を減らすよう自動車メーカーに義務づける。

■日本自動車殿堂、15-16年イヤーカーにロードスター進出 (13日)

日本自動車殿堂は、「2015-2016日本自動車殿堂イヤー賞」4賞を決定したと発表した。カーオブザイヤーはマツダ「ロードスター」および開発グループが受賞した。

■国土相、米のタカタ製膨張装置中止指示「安心・安全の観点で」 (14日)

石井啓一国土相は13日の会見で、米運輸省道路交通安全局 (NHTSA) がタカタにインフレーター (膨張装置) 用の硝酸アンモニウム使用を順次止めるよう指示したことについて「(指示の) 経緯を確認し、ユーザーの安心・安全確保の観点から国内の取り扱いについて早急に検討していきたい」と語った。

■国土交通省、車線維持支援システム技術指針を廃止 自動操舵の開発加速 (16日)

国土交通省は、車線維持支援システム (LKAS) に関する技術指針を廃止した。

■経産省と公取委、下請けとの適正取引を親事業者に要請 資金繰りに配慮 (16日)

経済産業省と公正取引委員会は、下請け企業との取引がある親事業者約20万5000社と関連事業者団体約650団体に対し下請代金支払遅延等防止法 (下請法) と下請振興法を順守するよう通達を出した。

■経産省、中小企業に新たな支援 IT投資や海外展開後押し (17日)

経済産業省は中小企業のIT投資や海外展開を支援する政策の策定に着手する。

■環境性能課税の総務省案、最大3% 増税色鮮明 (20日)

総務省は、消費税10%時点で軽自動車税・自動車税に導入される「環境性能課税」案を経済産業省や自動車業界に示した。

■中小企業庁、信用補完制度を見直し (20日)

中小企業庁は、中小企業の資金繰りを円滑化する「信用補完制度」の見直しに着手する。

■国土交通省、自動車アセスの結果一部公表 (30日)

国土交通省は、自動車アセスメント (JNCAP) 評価結果の一部をこのほど公表。

12月.....

■国土交通省、先進交通事故自動通報装置の義務化も 効果に着目、早期普及へ (1日)

国土交通省は先進交通事故自動通報装置 (AACN) の効果に着目し、普及策を練っている。

クローズアップ

旭硝子、映像投影可能な透明ガラススクリーン 車載用途にも試験販売



グラシンの応用例。HUDやデジタルサイネージなどで用途開発を図る

車メーカーや車載機器メーカーからは、ヘッド・アップ・ディスプレイ (HUD) システムのコンパイナ (投影板) 向けの引き合いも出ている。(11月11日)

旭硝子は、表面に映像などを投影できる透明ガラススクリーン「グラシン」の試験販売を開始した。現在はオフィスなど非自動車分野での導入にとどまっているが、自動

NOK
www.nok.co.jp

Always, Everywhere

NOK株式会社

〒105-8585 東京都港区芝大門1丁目12番15号

- 警察庁、自動走行ラインを議論 公道実験を念頭に（1日）**
警察庁は「自動走行の制度的課題等に関する調査検討委員会」をこのほど開き、公道上での実証実験ガイドラインなどについて議論した。
- 特許庁、模倣品撲滅キャンペーン 消費者の意識改革に重点（2日）**
特許庁は2015年度の「模倣品・海賊版撲滅キャンペーン」を開始した。
- 経産省、中小企業人材を米へ派遣 事業で公募、海外事業拡大促す（4日）**
経済産業省は、中小企業の経営者や役員などを米国のイノベーション拠点に派遣する事業の公募を始めた。
- 硝酸アンモニウム使用停止、国交省が行政指導 タカタ製インフレーター（5日）**
国土交通省は、自動車メーカーやタカタに対し、硝酸アンモニウムを使ったタカタ製インフレーター（膨張装置）の使用を段階的に減らすよう行政指導した。
- 政府・与党、中小企業に新たな支援 設備投資の税50%軽減（8日）**
政府・与党は、中小企業が新たに導入する設備に対する3年間の減税措置を行う方針を決めた。
- 政府、シェアリングエコノミーの利用環境整備へ（11日）**
政府はモノやサービスを利用者同士が共同使用する「シェアリングエコノミー」市場の創出に向けて必要な制度の設計や見直しの整理案をとりまとめた。
- COP21閉幕、一歩前進したが（15日）**
国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21、仏パリ）が、温暖化防止の新たな枠組み「パリ協定」を採択して閉幕した。
- 自動車総連、3000円以上の賃上改善要求 16年春闘の基本方針案（21日）**
自動車総連は、2016年春闘での賃金改善として3000円以上を要求する基本方針案をまとめた。
- タカタ製エアバッグ改修率 11月末で半数超え（21日）**
国土交通省は、タカタ製エアバッグのリコール（回収・無償修理）進ちょく状況を公表した。
- 部工会長会見、来年の部品生産 今年並み可能（22日）**
日本自動車部品工業会（部工会）の玉村和己会長（ニッパツ社長）は、東京都港区の日本自動車会館で会見し、部品メーカーの来年の生産見通しについて、「国内の新車販売は厳しいが、輸出分でカバーできれば今年並みの生産を確保できると見ている」と話し、自動車メーカーによる輸出の拡大に期待感を示した。

国内

- 10月.....
- 部品メーカーの採用状況 売り手市場 鮮明に（26日）**
採用スケジュールが変更され、各社が困惑の表情を浮かべている。
- デンソー、世界の工場で情報共有 生産プラットフォーム18年めど構築（30日）**
デンソーは、世界の工場や生産ラインをつなぎ、情報を共有できるグローバルな生産プラットフォームを2018年にも構築することを明らかにした。
- 11月.....
- 大手好調、中堅は苦戦 トヨタ系部品4～9月期（2日）**
トヨタ系部品メーカーの2015年4～9月期連結業績が出揃った。
- タカタ、米NHTSAとエアバッグリコール問題決着（5日）**
タカタは、米国運輸省道路交通安全局（NHTSA）と一連のエアバッグリコールに関する同意指令に合意したと発表。
- 曙ブレーキ、米の生産混乱で業績悪化 今期無配に（7日）**
曙ブレーキ工業は米国での生産混乱により2015年度の株主配当予想を従来の10円（通期）から無配に下方修正した。
- 曙ブレーキ、不適切会計が発覚（7日）**
曙ブレーキ工業は、2015年4～9月期決算で不適切な会計処理の

- 可能性があると発表。
- トヨタ、米国に人口知能技術の研究・開発拠点（7日）**
トヨタ自動車は、人工知能（AI）技術の研究・開発拠点を米国に新設し、今後5年間で約10億ドル（1217億円）を投資する。
- タカタ中間決算、特損181億円計上（7日）**
タカタは、2015年4～9月期決算で181億円の特別損失を計上した。
- 部品メーカー、電子ミラー16年末の製品化目指し（10日）**
部品メーカーは「電子ミラー」の解禁をにらんだ開発を活発化している。
- ホンダ、「世界6極同時開発」を見直し（11日）**
ホンダは、四輪事業で推進してきた世界6極同時開発体制の一部を見直す。日本が中心となって地域間で共通化できるベースモデルを開発し、海外ではこれを現地モデルの開発に反映する。
- 日立AMS、世界初自動運転向けECU 情報認識と車両制御同時に（12日）**
日立オートモティブシステムズ（日立AMS、関秀明社長兼COO）は、情報認識と車両制御が同時処理できる自動運転向け電子制御ユニットを開発した。
- 4～9月期 日産系9社、全社増益 北米の売上高が増加（12日）**
日産自動車との取引が多い部品メーカーの2015年4～9月期決算は、北米での売上高の増加や円安ドル高の進行を背景に全社が増収となった。
- どうなるタカタのエアバッグ事業、硝酸アンモニウムのインフレーターが対象（14日）**
米国運輸省道路交通安全局（NHTSA）がタカタ製エアバッグのリコールに関連し、タカタに対しエアバッグ用インフレーター（ガス発生装置）のガス発生剤に硝酸アンモニウムを使用しないよう命じた。
- 日産・三菱自の共同開発EV、電池は日産系から（16日）**
日産自動車と三菱自動車は、共同開発する軽自動車の電気自動車（EV）のリチウムイオン電池に日産とNECの合弁会社オートモーティブエナジーサプライ（AES）製を採用する。
- パリ同時多発テロ 自動車メーカーにも影響（17日）**
仏パリ中心部と近郊で13日夜（日本時間14日早朝）に起きた同時多発テロは、現地に生産や営業拠点を持つ自動車メーカーにも影響を及ぼした。
- ホンダ系部品メーカー4～9月期、北米増産・円約で増収（18日）**
ホンダ系部品メーカーの2015年4～9月期決算は13社中11社が増収、8社が営業増益だった。
- トヨタ除く各社、車・路車間通信実用化先送り 周波数問題で（18日）**
日産自動車やホンダ、マツダなど国内自動車メーカー各社は、国内で車車間・路車間通信システムの実用化を先送りする。
- ピストンリング3社4～9月期、北米好調や円安で増益 2社が増収を確保（20日）**
ピストンリング大手3社の2015年度上期（15年4～9月期）は、国内での自動車減産や東南アジアの景気低迷を好調な北米市場と為替の円安が下支えし、3社が営業増益となった。
- ZF、TRW、センターエアバッグを開発（27日）**
ZF TRWは、前席の間で展開する「センターエアバッグ」は展開イメージを開発した。
- 12月.....
- ホンダ、定年を65歳まで延長（2日）**
ホンダは、定年を65歳まで延長するなど労働条件を見直す。
- ルネサス、TDKと鶴岡工場譲渡で基本合意（2日）**
TDKとルネサスエレクトロニクス、ルネサス全額出資子会社のルネサスセミコンダクタマニュファクチャリング（茨城県ひたちなか市、RSMC）は、RSMCの鶴岡工場（山形県鶴岡市）をTDKに譲渡する基本合意書を11月27日に締結した。
- ルネサス、高知工場を閉鎖（3日）**
ルネサスエレクトロニクスは、全額出資子会社のルネサスセミコンダクタマニュファクチャリング（茨城県ひたちなか市）の高知工場（高知県香南市）を、3年以内に閉鎖する。

■好決算 部品メーカー、4～9月期 米国市場が牽引 (7日)

日刊自動車新聞が上場部品メーカー132社の2015年4～9月期決算を集計したところ、全社合計の売上高は前年同期比8.3%増、営業利益が同13.5%増、当期純利益が同5.2%増と増収増益となった。

■東陽テクニカ、世界初のドア開閉エネルギー計測システム 解析時間20分に短縮 (9日)

東陽テクニカは、世界初のドア開閉エネルギー計測システムを2016年1月から販売する。

■JFEスチール、プレス加工困難な形状対応 新成形技術を開発 (11日)

JFEスチールは、プレス加工が難しい形状に対応できる新たな成形技術を開発した。

■日産自動車、仏政府・ルノー問題に決着 (15日)

日産自動車は、仏政府との間でルノー、日産両社の経営の自主性を保持することに合意した。

■ケーヒン、早期希望退職者を募集 国内事業の体質強化 (16日)

ケーヒンは国内事業の体質強化のため早期希望退職者を募集する。

■スズキ、海外の部品メーカー育成、品質向上へ、生産部門も指導 (17日)

スズキは海外の部品供給事業者育成を本格化する。

■トヨタ、3年連続1000万台超へ 16年世界販売計画 (17日)

トヨタ自動車は、2016暦年のグループ新車販売、生産計画を発表した。

■パイオニア、車載分野で透過型有機EL ハイマウント制動灯開発 (17日)

パイオニアは、透過型の有機EL照明を車載分野で展開する。

■ソルベイジャパン、エンジン機能部品 3Dプリントで製作 (18日)

ソルベイジャパンは、3Dプリント技術を活用してポリアミド6の粉末材料を使ったエンジン用のプレナムチャンバーを製作した。

■神戸製鋼、鉄とアルミ合金の新たな接合技術を活用 車載向けに異材部品材料 (22日)

神戸製鋼所は2020年をめどに、鉄とアルミニウム合金の新たな接合技術を用いた車載向け異材複合(マルチマテリアル)部品材料の量産化する。

海外

10月.....

■独コンチネンタル、マイルドハイブリッド来年投入 (28日)

独コンチネンタルは、2016年に48ボルト電源を利用したマイルドハイブリッドシステムを市場投入する。

■ブリヂストン、米大手用品チェーン買収 (28日)

ブリヂストンは、米国の大手自動車用品チェーン、ザ・ベップ・ボーイズ・マニー・モー&ジャックを買収する。

11月.....

■ASEAN、TPPIに強い関心 日系、供給網の自由度向上 (14日)

東南アジア諸国連合(ASEAN)の間で環太平洋経済連携協定(TPP)への関心が高まっている。

■IHI、熱処理加工サービスの独会社を買収 (16日)

IHIは、熱処理受託加工を手がける独VTN社(ヴィッテン市)の全株式を取得して子会社化する。

12月.....

市場

10月.....

■乗用各社、4～9月世界販売 好調の米国が牽引 (27日)

主な国内乗用車メーカーが明らかにした2015年度上期(4～9月)の世界販売実績は、国内向けの低迷を米国などでカバーし、前年を上回ったメーカーが多かった。

■上期国内生産2年ぶり減 軽の落ち込み響く (31日)

日本自動車工業会が発表した2015年度上期(4～9月)の国内生産台数は、前年同期比7.0%減の444万6586台と2年ぶりに減少した。

11月.....

■15年新車、500万台超も 登録の上積みが焦点 (4日)

2015年の登録車新車販売台数は4年連続で300万台超えが確実となった。

12月.....

■11月の車名別新車販売ランキング、アクア8カ月連続増 (5日)

自販連、全軽自協は11月の車名別新車販売ランキングを発表。

■ローランドベルガー調査、ディーゼルエンジンの展望 主要市場でシェア縮小 (9日)

ローランドベルガーは、ディーゼルエンジン(DE)の市場展望に関する調査結果をまとめた。

■16年の市場予測、鍛圧機受注額5.9%減 (17日)

日本鍛圧機械工業会は、2016(1～12月)の鍛圧機械受注額を対15年見通し比で5.9%減の3200億円とする市場予測を発表。

■16年上期車検、過去5年間で最低水準 保有ビジネスに「試練」 (21日)

ディーラーのサービス部門や專業整備工場など、保有ビジネスに関わる事業者に再び「試練の前半戦」が訪れようとしている。

記者の目

16年のキーワードは自動運転、関税撤廃、為替

2016年は自動車部品業界にとって大きな転機となりそうだ。キーワードは「自動運転」「関税撤廃」「為替」。

自動運転は政府の支援が追い風となる。昨年の官民対話で安倍晋三首相が、20年のオリンピック・パラリンピックでの無人自動走行による移動サービスや高速道路での自動運転の実現に向け、「17年までに必要な実証を可能とすることを含め、制度やインフラを整備する」と発言した。今後はADAS(先進運転支援システム)をはじめ自動運転関連の技術開発の加速が予想され、部品メーカーには受注のチャンスが生まれる。

関税撤廃も明るい話題だ。環太平洋経済連携協定

(TPP)では自動車部品の87.4%(品目数ベース)で発効後に関税が即時撤廃される。特に北米向けの輸出増への期待が大きい。WTO情報技術協定(ITA)の拡大交渉も妥結した。参加53カ国・地域ではデジタルAV機器など201品目の関税が順次撤廃される。

為替は米FRB(連邦準備制度理事会)が利上げを決定し、円安が進む可能性が出てきた。実際にどの程度の水準になるかは不透明だが、海外生産品の国内移管を含め、グローバル戦略の中で「どこで部品をつくるか」という経営判断を迅速かつ適切に行うことが重要となる。(N)



このダイジェストは10月26日～12月22日まで日刊自動車新聞に掲載した主要な部品関連の記事を抜粋。詳しくは日刊自動車新聞電子版・<http://www.netdenjd.com/> (有料・月額3,500円) で読めます。

指標・統計

■自動車の生産・販売・輸出（自工会調）

1. 四輪車の生産実績

（単位：台）

	2015. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	509,505	95.4	5,127,951	91.4	702,380	98.3	5,830,331	92.2
普 通 車	311,069	100.2	3,068,293	98.5	427,436	101.0	3,495,729	98.8
小 型 四 輪 車	109,593	100.9	1,015,215	84.0	157,018	104.2	1,172,233	86.2
軽 四 輪 車	88,843	77.2	1,044,443	81.1	117,926	84.1	1,162,369	81.4
ト ラ ッ ク	86,225	94.6	877,619	98.4	114,029	92.1	991,648	97.6
バ ス	9,244	94.8	92,300	99.8	12,523	95.1	104,823	99.2
合 計	604,974	95.3	6,097,870	92.4	828,932	97.4	6,926,802	93.0

2. 四輪車の国内販売実績

（単位：台）

	2015. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	271,386	96.5	2,879,029	88.9	399,758	92.6	3,278,787	89.3
普 通 車	90,776	99.7	906,633	91.7	134,216	93.2	1,040,849	91.9
小 型 四 輪 車	90,074	103.9	924,090	93.0	125,597	100.9	1,049,687	93.9
軽 四 輪 車	90,536	87.4	1,048,306	83.4	139,945	85.7	1,188,251	83.7
ト ラ ッ ク	54,622	106.8	540,834	97.9	78,226	91.4	619,060	97.1
バ ス	1,040	106.1	8,911	110.3	1,389	103.7	10,300	109.3
合 計	327,048	98.1	3,428,774	90.2	479,373	92.4	3,908,147	90.5

3. 四輪車の輸出実績

（単位：台）

	2015. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
乗 用 車	278,096	100.1	2,507,182	100.2	364,666	104.2	2,871,848	100.7
普 通 車	260,767	100.5	2,381,992	102.2	347,216	105.6	2,729,208	102.6
小 型 四 輪 車	17,100	94.2	121,995	71.8	16,875	80.5	138,870	72.8
軽 四 輪 車	229	170.9	3,195	191.5	575	471.3	3,770	210.6
ト ラ ッ ク	35,054	99.4	316,379	102.1	41,204	87.2	357,583	100.1
バ ス	9,344	96.0	92,305	100.1	13,135	101.8	105,440	100.3
合 計	322,494	99.9	2,915,866	100.4	419,005	102.2	3,334,871	100.6

■自動車部品の生産・輸出・輸入

1. 自動車部品の生産（経済産業省「生産動態統計」）

（単位：百万円）

		2015. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
総括	自動車部品 41品目	431,637	98.7	4,130,346	97.5	553,768	99.0	4,684,114	97.7
	関連自動車部品 9品目	98,592	109.0	856,523	101.0	115,816	105.7	972,339	101.5
	内燃機関電装品 5品目	28,651	99.7	267,100	98.6	34,254	100.3	301,354	98.8
	二輪車部品 4品目	4,979	103.0	46,242	102.0	5,997	104.9	52,239	102.3
	合 計	563,859	100.5	5,300,211	98.2	709,835	100.2	6,010,046	98.4

			2015. 8月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)	2015. 9月分	対前年 同月比(%)	1月よりの 累計	対前年 同期比(%)
自動車部品 (41品目)	1	ピストン	2,769	101.1	26,860	97.9	3,619	101.9	30,479	98.3
	2	ピストンリング	2,870	93.3	27,357	100.4	3,547	90.3	30,904	99.1
	3	シリンダーライナ	1,463	93.1	13,343	92.2	1,774	88.6	15,117	91.8
	4	吸気弁及び排気弁	2,885	98.0	25,803	93.1	3,454	96.3	29,257	93.5
	5	ガスケット	2,120	98.8	18,946	95.7	2,470	94.6	21,416	95.6
	6	燃料ポンプ	1,303	88.3	13,411	87.2	1,696	88.0	15,107	87.2
	7	空気清浄器	1,753	89.1	17,201	106.1	2,180	100.6	19,381	105.4
	8	油清浄器	1,675	105.5	14,474	96.0	1,847	96.2	16,321	96.1
	9	油ポンプ	1,658	79.6	17,749	92.8	1,998	80.7	19,747	91.4
	10	水ポンプ	1,955	100.4	18,579	100.6	2,442	99.6	21,021	100.5
	11	ラジエータ	12,744	93.8	119,655	86.1	13,979	82.3	133,634	85.7
	12	クラッチ装置	5,270	115.5	45,608	108.2	5,892	106.4	51,500	108.0
	13	自動変速装置	141,505	95.6	1,389,841	98.3	181,854	97.7	1,571,695	98.2
	14	ユニバーサルジョイント	2,641	84.5	25,526	88.5	3,162	84.9	28,688	88.1
	15	プロペラシャフト	3,620	94.5	35,426	95.0	4,760	95.8	40,186	95.1
	16	車輪	6,770	101.0	63,543	100.0	8,982	101.6	72,525	100.2
	17	かじ取りハンドル	2,091	67.0	27,328	83.5	3,525	82.1	30,853	83.3
	18	ショックアブソーバ	9,554	98.1	109,551	126.0	11,520	96.0	121,071	122.4
	19	ブレーキ倍力装置	1,853	70.2	27,432	116.2	2,525	80.2	29,957	111.9
	20	ブレーキシリンダ	3,008	50.6	27,760	53.0	4,096	60.8	31,856	53.9
	21	ブレーキパイプ	2,309	105.6	23,379	109.7	2,956	105.5	26,335	109.2
	22	ブレーキシュー	2,255	93.6	21,511	94.1	2,737	91.2	24,248	93.8
	23	燃料タンク	5,330	93.9	50,210	87.0	7,513	97.1	57,723	88.2
	24	排気管及び消音器	22,420	101.7	190,461	88.9	31,913	109.1	222,374	91.3
	25	窓わく	2,210	101.1	47,722	220.8	2,890	97.3	50,612	205.9
	26	ドアヒンジ・ハンドル・ロック	5,372	85.7	50,815	79.2	7,008	85.2	57,823	79.9
	27	窓ガラス開閉装置	3,438	87.2	37,155	100.3	4,527	89.5	41,682	99.0
	28	シート	57,009	109.3	478,912	91.3	79,677	111.5	558,589	93.7
	29	スイッチ類	10,988	100.2	165,865	152.4	14,103	99.6	179,968	146.3
	30	計器類	10,621	119.9	89,068	101.1	12,394	110.2	101,462	102.1
	31	窓ふき	6,145	103.7	60,393	103.4	7,381	95.5	67,774	102.5
	32	警音器	1,181	101.7	16,581	154.8	1,483	101.6	18,064	148.4
	33	暖房装置	6,375	97.6	58,010	84.6	8,612	96.3	66,622	85.9
	34	電子式ブレーキ制御装置	11,949	103.7	112,809	92.3	16,750	108.6	129,559	94.1
	35	シートベルト	6,606	107.2	67,271	107.1	7,522	105.9	74,793	107.0
	36	エアバッグモジュール	4,785	84.3	53,617	95.1	6,560	84.7	60,177	93.9
	37	気化器・燃料噴射装置	21,044	124.0	158,164	96.6	22,670	105.4	180,834	97.6
	38	ステアリング装置・タイロッド・タイロッドエンド	29,200	96.1	261,238	91.7	36,169	95.6	297,407	92.2
	39	軸受メタル	3,389	101.0	30,838	94.9	3,867	93.1	34,705	94.6
	40	ブッシュ	2,329	97.4	22,327	104.4	2,920	93.0	25,247	102.9
	41	オイルシール	7,175	94.7	68,607	97.2	8,794	94.2	77,401	96.9
		合 計	431,637	98.7	4,130,346	97.5	553,768	99.0	4,684,114	97.7
関連自動車 部品 (9品目)	1	自動車用蓄電池	7,237	110.4	67,554	103.2	8,779	99.0	76,333	102.7
	2	かさね板ばね	2,169	97.4	19,119	103.7	2,284	95.2	21,403	102.7
	3	つるまきばね	1,471	89.6	13,635	85.5	1,772	87.6	15,407	85.8
	4	線ばね	3,967	98.6	37,225	97.2	5,130	100.0	42,355	97.5
	5	カークラー	19,829	99.6	194,954	98.1	27,161	101.2	222,115	98.4
	6	自動車用器具	31,648	112.4	253,843	106.1	32,297	115.3	286,140	107.0
	7	自動車用電球	751	94.1	7,340	95.1	953	95.7	8,293	95.1
	8	カーオーディオ	5,185	173.2	32,661	118.2	6,134	159.8	38,795	123.3
	9	カーナビゲーションシステム	26,335	109.3	230,192	97.2	31,306	99.5	261,498	97.5
		合 計	98,592	109.0	856,523	101.0	115,816	105.7	972,339	101.5

指標・統計

		2015. 8月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)	2015. 9月分	対前年 同月比 (%)	1月よりの 累計	対前年 同期比 (%)
内燃機関電 装品 (5品目)	1 ダイナモ	5,957	101.5	54,471	96.0	7,111	101.6	61,582	96.6
	2 スタータ	6,943	105.3	64,546	99.7	8,080	104.6	72,626	100.2
	3 ディストリビュータ	479	86.2	4,808	94.1	543	87.2	5,351	93.4
	4 イグニッションコイル	6,091	102.8	55,484	98.6	7,779	113.0	63,263	100.2
	5 プラグ	9,181	93.8	87,791	99.6	10,741	90.2	98,532	98.5
	合 計	28,651	99.7	267,100	98.6	34,254	100.3	301,354	98.8
二輪自動車 部品 (4品目)	1 気化器	708	107.1	6,418	105.3	778	101.3	7,196	104.9
	2 ショックアブソーバ	1,945	98.7	16,779	103.3	2,065	93.6	18,844	102.1
	3 計器類	958	109.2	8,473	91.2	1,303	113.8	9,776	93.7
	4 ブレーキ装置	1,368	103.2	14,572	106.3	1,851	115.8	16,423	107.3
	合 計	4,979	103.0	46,242	102.0	5,997	104.9	52,239	102.3

(注)：経済産業省「生産動態統計」の見直しにより

①平成21年1月より「自動車用蓄電池」を「自動車用蓄電池（二輪自動車用を除く）」に変更。

②平成23年1月より「オレオ（ショックアブソーバを含む）」を「ショックアブソーバ」に変更。

③平成26年1月より品目の掲載順序を一部変更。

④平成26年1月より「エアバッグモジュール」の定義を変更。

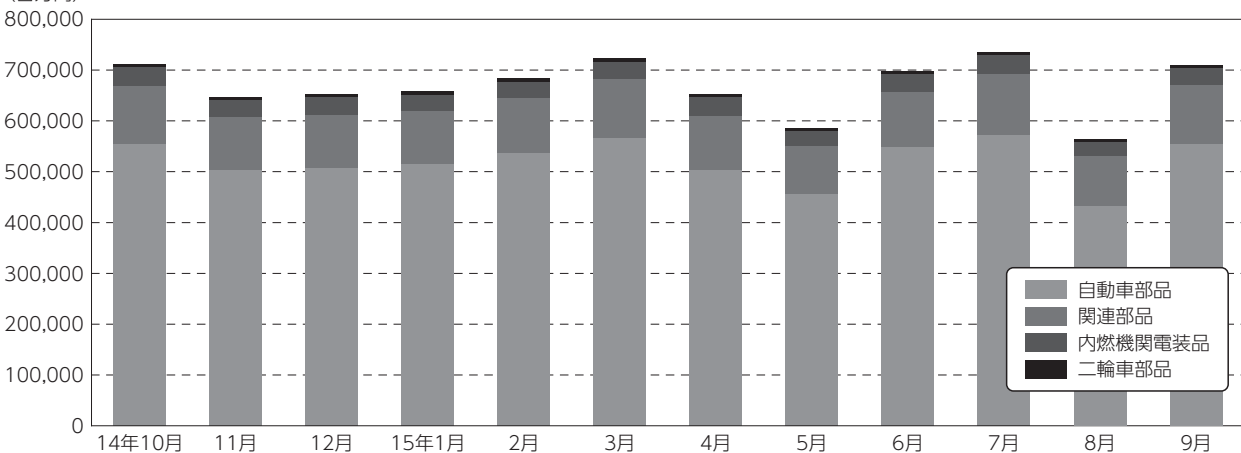
そのため、発生年月以前の数値と発生年月以降の数値をそのまま比較出来ません。

接続係数を前年の数値に乗じて、当月の数値と接続して前年比を算出しています。

⑤平成26年1月より「オイルシール」の生産額の掲載が廃止になったため、「オイルシール」のみ販売額を計上しています。

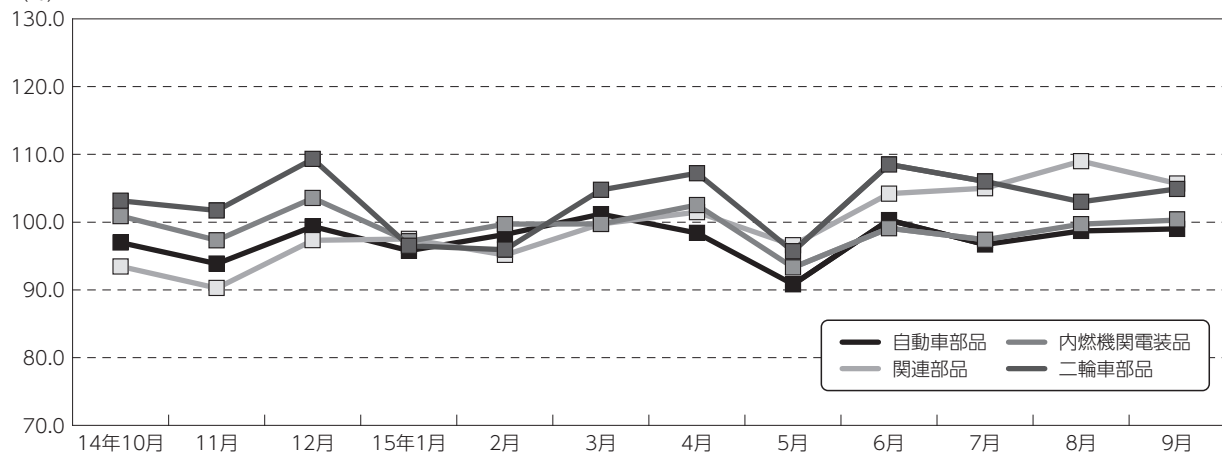
最近12ヶ月の自動車部品の生産推移

(百万円)



自動車部品生産の対前年同月比の状況

(%)



どこでも 見られる 使える 電子版!

日刊自動車新聞 新 電子版

パソコンやスマホでニュースをチェック!

新聞紙面の記事はもちろん、ウェブならではの速報対応で、
業界動向をリアルタイムでお伝えします。

電子版でしか読めないコンテンツが満載。

気軽に使える情報ツールとしてお役立てください。

外出時や出張先、
海外でもご利用OK!

外出先や海外でも、ちょっとした
空き時間を利用して気になる記事
をチェックできます。

速報
機能

ウェブ
限定記事

過去の記事もすぐに探せる!
バックナンバー検索

全文検索機能でキーワードからの
記事検索もラクラク。期間を指定
しての検索もできます。

これでビジネスの幅が
広がります!

社内では新聞本紙、
外出先では電子版、
使い分けると便利だな!

あつ
これは
便利だ!

無料のお試し購読はこちらから

Q 日刊自動車新聞 電子版

検索

<http://www.netdenjd.com/>

購読の申し込み・お問い合わせ

日刊自動車新聞社

販売推進部

〒105-0012 東京都港区芝大門1-10-11 芝大門センタービル3階 TEL: 03-5777-2318 FAX: 03-5777-2319

E-mail: hanbai@njd.jp

新春のお慶びを

株式会社アステア 代表取締役会長 水松 幹夫	朝日電装株式会社 代表取締役社長 手嶋 寛征	株式会社浅野齒車工作所 取締役社長 倉長 勇太郎	曙ブレーキ工業株式会社 代表取締役社長 信元 久隆	株式会社青山製作所 取締役社長 青山 幸義	愛三工業株式会社 代表取締役社長 小林 信雄
エイケン工業株式会社 代表取締役 早馬 義光	イワタボルト株式会社 代表取締役社長 岩田 聖隆	株式会社今仙電機製作所 代表取締役社長 若山 恭二 代表取締役社長 藤掛 治	株式会社アーレスティ 代表取締役社長 高橋 新	アルパイン株式会社 相談役 石黒 征三	株式会社荒井製作所 代表取締役社長 山中 新一
小島プレス工業株式会社 取締役社長 小島洋一郎	株式会社小糸製作所 代表取締役会長 大嶽 昌宏	大野ゴム工業株式会社 代表取締役 大野 洋一	NTN株式会社 代表取締役社長 大久保 博司	NOK株式会社 代表取締役会長兼社長 鶴 正登	HKT株式会社 代表取締役社長 山崎 正男
制研化学工業株式会社 代表取締役社長 前川 幸生	株式会社杉浦製作所 代表取締役社長 杉浦 明博	しげる工業株式会社 代表取締役社長 正田 敦郎	株式会社ジェイテクト 取締役社長 安形 哲夫	三和パッキング工業株式会社 代表取締役社長 宮川 博至	三輪精機株式会社 代表取締役社長 西海 栄一

申し上げます

株式会社榎屋 取締役社長 大原 鉉一	竹内工業株式会社 取締役社長 竹内 政雄	大和産業株式会社 代表取締役 丸山 和重	ダイヤモンド電機株式会社 代表取締役社長 栗田 裕功	大同メタル工業株式会社 代表取締役会長 兼最高経営責任者 判治 誠吾	大東プレス工業株式会社 代表取締役 吉田 隆司
日新工業株式会社 代表取締役 松下 芳博	株式会社ニチリン 代表取締役社長執行役員 前田 龍一	トヨタ紡織株式会社 取締役社長 石井 克政	東海マテリアル株式会社 取締役社長 佐伯 正裕	株式会社デンソー 取締役社長 有馬 浩二	TPR株式会社 代表取締役社長兼COO 山岡 秀夫
マルヤス工業株式会社 代表取締役会長 山田 隆雄	株式会社ボンフォーム 代表取締役社長 西脇 保彦	パシフィック工業株式会社 代表取締役社長 長安 莞爾	日本特殊陶業株式会社 代表取締役社長 尾堂 真一	日本精工株式会社 取締役代表執行役社長 内山 俊弘	日本発条株式会社 代表取締役社長 玉村 和己
		株式会社日刊自動車新聞社 代表取締役社長 市川 優	株式会社ワイピーシステム 代表取締役 吉田 英夫	株式会社ヨロズ 代表取締役会長 代表取締役社長 代表取締役社長 志藤 昭彦 佐藤 和己	ユニプレス株式会社 代表取締役社長執行役員 吉澤 正信

JAPIA NEWS

2016
1・2
隔月刊

一般社団法人 日本自動車部品工業会

(通巻711号)

目次

- 07 | 新年のご挨拶
会長・玉村 和己
- 09 | 年頭所感
経済産業省 製造産業局自動車課長 伊吹 英明
- 10 | **特集** 2015年度中間期 自動車部品工業の経営動向
通期は増収増益の見通し
- 15 | リケジョ(理系女子学生)に身近な自動車部品産業へ
- 17 | 東京モーターショーに共同出展
会員企業の技術を世界にアピール
- 21 | **新連載** DBJ 経済ワンポイント解説 Vol.7
欧州に押し寄せる難民の影と今後の課題
日本政策投資銀行
- 23 | 工業会業務レポート・スケジュール
- 28 | 北米事務所だより Vol.116
- 29 | 支部活動レポート
中部支部視察報告 中小企業部会
- 31 | **会員企業紹介**
江崎工業株式会社
- 33 | **委員会部会だより**
製品環境部会
自動車サプライチェーン全体の負荷低減に向けて
部会長 清水 康弘
- 35 | 会員トピックス
ボッシュ株式会社 下山田 淳さん
- 36 | 日刊自動車新聞 NEWSダイジェスト
- 39 | 指標・統計

平成28年1月15日発行
(隔月1回15日発行)

■発行所

一般社団法人
日本自動車部品工業会
〒108-0074
東京都港区高輪1-16-15
電話 03-3445-4212
FAX 03-3447-5372

■編集

日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1-10-11
芝大門センタービル3階
電話 03-5777-2351(代表)

■価格(消費税・送料別)

1部1,000円

JAPIA会員企業様向け

最新のTS16949セミナーの情報・案内等は…

www.lapj.co.jp まで

謹んで新春のお慶びを申し上げます

旧年中は格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます
本年もどうぞ宜しく願い申し上げます
平成28年元旦

ISO教育コンサルティング

株式会社エルエーピー

LAP ISO
Lead Auditor Project Team

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 TEL:03-5114-2930 Email: iso@lapj.co.jp



For a Better Tomorrow
AISIN GROUP

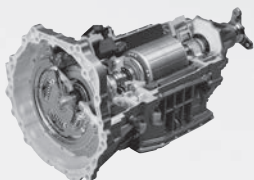
クルマをもっと 進化させる。 これが日本の ハイブリッド。

世界の最先端を走る日本のハイブリッドカー。

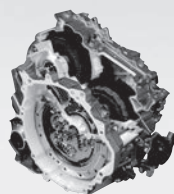
その重要な役割を果たしているのが、
私たちがつくるハイブリッドトランスミッションです。
エンジンとモーターを効率よく組み合わせることで
圧倒的な低燃費と加速を実現しています。



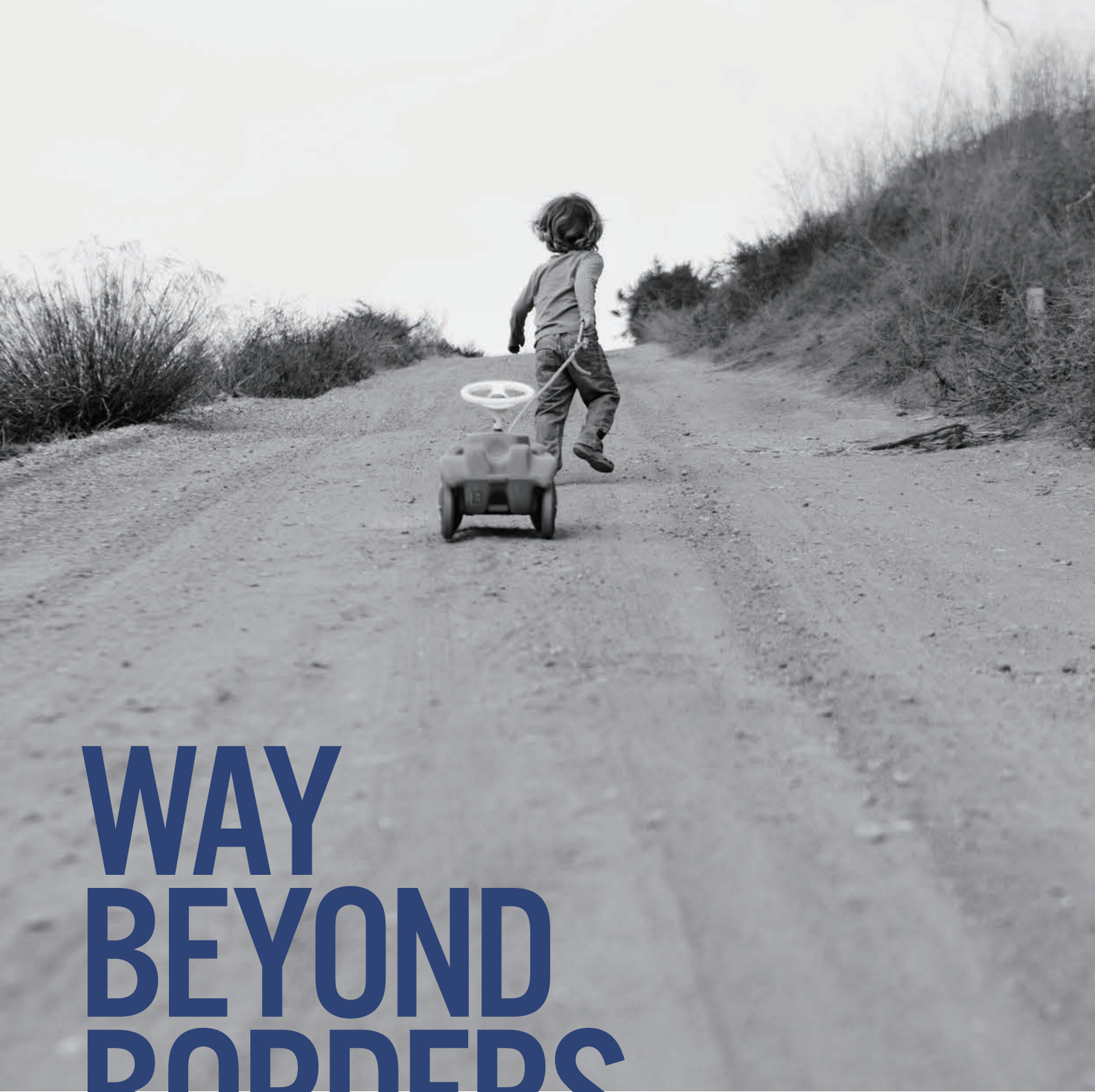
FR ハイブリッド
トランスミッション
AWRHT25



FF ハイブリッド
トランスミッション
AWFHT15



アイシン・エイ・ダブリュ



WAY BEYOND BORDERS

国際物流という国境のないフィールドで、私たちが届けるのは、ものだけではありません。
一人ひとりの大切な思いをともに、そのままに。つながるその先で新しい道が生まれていきます。



阪急阪神エクスプレス

HANKYU HANSHIN EXPRESS Co.,Ltd.

<http://www.hh-express.com/jp/>